

令和2年7月豪雨復旧・復興本部会議（第13回）

日時：令和6年3月27日（水）10時00分～

場所：防災センター（201会議室）

次 第

1 開 会

2 本部長（知事）挨拶

3 議 事

（1）令和2年7月豪雨からの復旧と創造的復興に向けた取組み... [資料1](#)、[資料2](#)

（2）広域本部・地域振興局からの報告 ... [資料3](#)

4 閉 会

【閉会后】

報道機関の皆様を対象に、今年度制作した「緑の流域治水」の取組みの動画
（ 取組みの解説動画 小学生向け動画 ）を紹介します。

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目 資料1 1

項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度末 到達イメージ	R5年度末の状況
1 堆積土砂の撤去 など河川の 緊急対策	堆積土砂	県管理河川の堆積土砂撤去【93万㎡】	撤去完了	流下能力維持・確保のため、必要な土砂撤去の継続的な実施	153万㎡ (R6.2未累計)	○堆積土砂の撤去完了
	河道掘削	動物の生息・生育環境や河川の利活用等に配慮のうえ、最大限の掘削を実施	河川整備 計画策定	継続的な河道掘削を推進	240万㎡ 掘削完了 (R6.3末)	○計画的な河道掘削・ 河川施設の復旧実施
	災害復旧	49箇所応急 対策完了(8月)	県管理の河川施設の復旧【394箇所】	県管理9支川権限代行 復旧工事完了	全394箇所着手 (344箇所完了)	
	河川情報の 充実	河川カメラ・水位計の増設	<R2年度実績> 河川カメラ2基 水位計2基 増設	<R3年度実績> 河川カメラ2基 水位計7基 増設	更なる増設等の検討	<R2.7~累計> 河川カメラ35基 水位計15基 増設 (権限代行含む)
2 治山・砂防による 山の再生・強化	堆積土砂 流木	砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去【17箇所】	撤去完了	維持管理上、必要な土砂撤去の 継続的な実施		○緊急的な治山・砂防 施設の整備完了
	治山	治山施設の復旧【17箇所】	治山施設の復旧【17箇所】	緊急的な治山施設の整備【67箇所】	山地防災パトロールの実施	整備完了
	砂防 施設	砂防施設の復旧【237箇所】	緊急的な砂防施設の整備【17箇所】	その他砂防施設の整備【23箇所】 ※全箇所完了はR7年度	方江川流域土砂・洪水氾濫対策 新規事業採択 (R13年度完了)	
	戸別受信機	市町村への設置補助・支援	全世帯設置完了			
3 “いのち”を守る 防災・減災力の 強化	ハザード マップ	L2対応ハザードマップへの更新 (国管理・県管理水位周知河川)	L2ハザードマップ 更新・周知完了	水位周知河川以外の河川のL2対応ハザードマップへ更新		○全世帯への戸別受信機等の 設置とL2ハザードマップの 更新・周知
	マイタイム ライン	マイタイムラインの普及	ガイドブックの県HP掲載 全世帯配布・訓練実施	専用WEBサイト開設 作成支援動画制作	マイタイムラインを活用した防災教育支援や 住民参加型訓練の実施	○要支援者等避難計画100%作成
	避難計画	要支援者個別避難計画・要配慮者利用施設の 避難確保計画の作成支援	100%作成完了	計画の実効性の更なる向上、地区防災計画の策定推進 新たに地域防災計画に掲載された施設の避難確保計画作成支援や避難訓練研修等の継続実施		○マイタイムラインの全世帯へ の普及
	田んぼダム	モデル地区選定・せき板配布	296ha(7市町村) で実証実験実施	457ha (7市町村)	検証結果の評価 人材育成着手	人吉球磨地域への 田んぼダム普及・拡大
4 本格的な 住まいの再建	住まいの 再建	建設型応急住宅の建設・提供	全808戸建設完了 (12月9日)	指定避難所解消 (12月31日)	応急仮設等入居者数 1,814戸4,217人 (R3.1ピーク時)	R5.12にはすべての 住まいの再建に目処
	災害公営 住宅	意向確認・建設戸数の把握	災害公営住宅の設計・工事等の支援	八代市志野 入居開始(R5.4)	八代市志野 入居開始(R5.4)	○被災された方々お一人 お一人の意向に沿った 住まいの再建・確保の完了
	災害廃棄物	災害廃棄物処理支援	公費解体 完了率99.9% (R4.3月末時点)	被災者への配慮案件の対応を一層継続	処理完了	○復興のシンボルとなる 災害公営住宅完成・入居開始
	人吉市 まちづくり	市町村の復興計画策定支援	復興計画策定 (八代市、人吉市、芦北町、 相良村、山江村、球磨村)	まちづくり計画策定支援	復興まちづくり計画策定 (八代市、人吉市、相良村、球磨村)	まちづくりの推進
5 被災地の まちづくりと 集落再生	球磨村 坂本町・芦北町 集落再生	住民の意向把握・事業計画作成・概略設計	集落再生 方針決定	球磨村・芦北町・坂本町 宅地嵩上げ着手	球磨村・芦北町・坂本町 宅地嵩上げ着手	○復興のシンボルとなる 災害公営住宅完成・入居開始
	球磨村 坂本町・芦北町 集落再生	道路・ライフラインの復旧	千寿園仮設施設完成(3月)	仮設地指定 承認	R6.2着工	○被災された方々お一人 お一人の意向に沿った 住まいの再建・確保の完了
	球磨村 坂本町・芦北町 集落再生	住民の意向把握・事業計画作成・概略設計	集落再生 方針決定	球磨村・芦北町・坂本町 宅地嵩上げ着手	球磨村・芦北町・坂本町 宅地嵩上げ着手	○復興のシンボルとなる 災害公営住宅完成・入居開始

→

撤去完了

→

実施中

→

実施中

緊急的な治山・砂防施設完了率
98.8%
(83/84件)

→

完了

→

実施中

目標を上回る
617haで実施中

→

全ての被災者の
再建に目処

→

災害公営住宅
全市町村で入居開始

→

処理完了

→

人吉市土地区画整理
事業着手

→

球磨村新たな宅地
一部完成・引渡し

→

「千寿園」再建完了

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目

項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度末イメージ (到達目標)	R5年度末の状況	
6 生業の再建と 新たな産業の創出	事業再建支援 なりわい再建支援補助金による施設・設備の復旧支援 県制度融資による資金繰り支援 事業復活おうえん給付金(豪雨型)の創設		交付申請・決定完了 事業再開まで支援を継続	復旧率98.6% (決定507件、完了500件)	○再建を目指す全ての事業者の事業再開	実施中 なりわい再建支援補助金復旧率 98.6% (500/507件)	
	商店街の再開 仮設商店街の開設支援 被災した商店街の復旧支援	人吉市 2箇所(2月) 坂本町 1箇所(7月) 球磨村 2箇所(9月、12月)		本格的な事業再開に向けた支援を継続	人吉市の仮設商店街解消(入居者の再進完了)	○流域全体をけん引する新たな産業の創出	立地協定 34件 新たな工業団地 検討開始(八代)
	新たな産業の創出 地域の資源を生かした産業の創出(立地促進補助金の投資・雇用要件緩和など「球磨川流域復興枠」の設置等) ローカル5Gなどの情報インフラの整備によるサテライトオフィスの設置やベンチャー企業誘致の推進	協定締結5件(R2年度末) 協定締結18件(R3年度末累計)		協定締結27件(R4年度末累計)	<R2.7~累計> 協定締結34件		
7 農林水産基盤の 復旧	農業基盤の復旧 営農用機械・施設の復旧【3,726件(R5.3月末時点)】 応急復旧・自力復旧【666件(R6.3月末時点)】 農地・農業用施設の本格的な復旧工事【867件(R6.3月末時点)】 代替農地での営農継続支援		復旧完了 復旧完了	779箇所完了 必要に応じて支援継続	○再建を目指す全ての農林水産漁業者の生産基盤の復旧完了	実施中 農業・林業基盤復旧率 95.5% (5524/5784件)	
	林水産基盤の復旧 林道の本格的な復旧工事【473件(R6.3月末時点)】 応急復旧・自力復旧【45件(R6.3月末時点)】 林水産施設(木材加工流通施設等)の復旧【7件(R4.3月末時点)】		復旧完了	復旧完了	301箇所完了		
	集落アクセス 集落アクセス道路復旧	県南地域道道の応急復旧工事完了(集落開閉166集落)	県・市町村による本格的な復旧工事	復旧完了	県南地域道道路復旧794箇所/全943箇所完了	○集落啓開や仮橋の設置等による道路網の回復	集落アクセス応急復旧完了・本復旧推進
8 国道219号を はじめとした道路・ 橋梁の創作的復興	国道219号 道路再開完了(8月) 緑蔭橋仮橋設置(5月)	一部区間通行開始	国道219号・県道復旧方針決定	本復旧工事着手	国の直轄代行による本格的な復旧工事	○国道219号・橋梁の創作的復興に向けた工事の着手・実施	全10橋復旧工事推進(西瀬橋復旧完了) 国道219号 本格復旧・かさ上げ実施中
	橋梁 仮橋の設置・流出橋梁の撤去及び復旧方針の検討	西瀬橋仮橋設置(9月) 坂本橋、相良橋仮橋設置(5月)	復旧位置・橋梁形式の決定	西瀬橋復旧完了	完成 1橋 本復旧着手 9橋	国の直轄代行による本格的な復旧工事	
	肥薩おれんじ鉄道 全線開通(11月)	完了				○<ま川鉄道の部分運行及び全線運行に向けた工事実施	部分運行再開 第4橋梁復旧本格化
9 鉄道の復旧	ま川鉄道 再生協議会設立(12月) 災害復旧事業費負担割合等支援スキーム決定(3月)	部分運行開始(11月)	「くま川鉄道再生協議会」での協議	R7年度全線運転再開	左岸側橋台・橋脚設置完了	○JR肥薩線の復旧方針に沿った事業実施	鉄道復旧に向けて協議中
	JR肥薩線 JR九州による復旧費用の算定及び復旧方針の検討	第4橋梁撤去(5月) 第1、第2橋梁撤去(4月)	代替バス・タクシー等の運行支援	全線運行に向けた復旧工事 肥後西村～湯前駅間 部分運行	第4橋梁工事着手	関係者協議により復旧方針決定・事業実施	
	観光需要喚起 観光復興戦略検討	観光復興戦略策定	観光復興戦略に沿った施策の展開・宿泊キャンペーンの実施 (球磨川沿りの地域資源を活かし、新たな観光スタイルの確立と、観光地人吉・球磨の完全復活に向けた施策の実施)	宿泊者数回復	宿泊者数 R元比 89.3%	宿泊者数が被災前の水準を上回る	着実に回復 人吉球磨地域の延べ宿泊者数(R元比) 89.3% (1月～9月速報値ベース)
10 観光地人吉・球磨の復活	人吉温泉 施設復旧等の支援・当面の収益確保等	復旧率69.7% (3月末時点)		32/35施設再開 (3月末時点)	○人吉温泉の再開	再開 再建を目指す全ての宿泊施設の再開に目処	
	球磨川くだりラフティング 被災した施設復旧等の支援	HASENBA(7月オープン)ラフティング一部区間再開(第1弾・4月末、第2弾・7月)	梅花の渡し 運航(R3年夏)	再開	豊かな自然を生かした、サイクリング・マラソンなどの新たなアクティビティの展開		
	球磨洞 事業再開支援	一部再開(5月)	再開			○球磨川くだり、ラフティング、球磨洞の再開	再開 (※一部コースは休止中)
	文化財 被災した文化財の復旧	復旧率30% (3月末時点)	復旧率51% (5月末時点)	復旧率 81.4% (3月末時点)		○被災した文化財の復旧完了	実施中 被災文化財復旧率 81.4% (35/43件)
	球磨焼酎 現状分析等	コンパティション展開に向けた情報収集及び事業者への支援	球磨焼酎の価値を高める研究開発、人材育成、誘客促進等の支援	サンプルコンパティションで最優秀金賞受賞(5月) 国内コンパティションで最高金賞受賞(5月)	世界レベルのコンパティション受賞 国内外における販路拡大		

令和2年7月豪雨からの 復旧と創造的復興に向けた取組み

令和6年(2024年)3月27日

熊 本 県

■緑の流域治水

- 流水型ダムを進捗状況①（ダムの構造等の検討状況）・・・6
- 流水型ダムを進捗状況②（仕組み）・・・7
- 流水型ダムを進捗状況③（環境アセスメント）・・・8
- 堆積土砂の撤去など河川の緊急対策（国管理区間）・・・9
- 堆積土砂の撤去など河川の緊急対策（県管理区間）・・・10
- 被災した河川管理施設の復旧（県管理区間）・・・11
- 輪中堤・宅地かさ上げの進捗状況・・・12
- 引堤・遊水地（国管理区間）の進捗状況・・・13
- 治山・砂防による山の再生・強化（砂防）・・・14
- 万江川流域の土砂・洪水氾濫対策（砂防）・・・15
- 治山・砂防による山の再生・強化（治山）・・・16
- 田んぼダムと農業用水利施設を活用した流域治水の取り組み・・・17
- 雨水貯留・浸透施設（雨庭）の整備・・・18
- 球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取り組み・・・19
- “いのち”を守る防災・減災力の強化・・・20
- 流域治水プロジェクト（ソフト対策の取組状況）・・・25
～「緑の流域治水」の取り組み等の見える化～

■すまい・コミュニティの創造

- 本格的な住まいの再建・・・28
- 本格的な住まいの再建（木造仮設の利活用）・・・29
- 本格的な住まいの再建（災害公営住宅等）・・・30
- 人吉市の復興まちづくりに向けた取り組み・・・31
- 球磨村の集落再生に向けた取り組み・・・32
- 八代市坂本支所の再建及び支所周辺まちづくりの推進・・・33

■なりわい（生業）・産業の再生と創出

- 事業再建支援・商店街の事業再開・・・36
- 新たな産業の創出と雇用の拡大・・・37
- 農林水産基盤の復旧・・・38
- 球磨川流域を中心とした県南地域の農林水産業の展望・・・39
- 球磨川流域のゼロカーボンの取り組み・・・40
- 地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入推進・・・41
- 電気事業等による地域貢献の取り組み・・・42

■災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり

- 国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興・・・46
- 鉄道の復旧（①くま川鉄道）・・・49
- 鉄道の復旧（②JR肥薩線）・・・50
- 児童生徒の心のケア・・・52
- 球磨川流域の魅力ある学校づくり・・・53

■地域の魅力の向上と誇りの回復

- 観光地人吉・球磨の復活①・・・56
観光地域づくりの更なる推進・旅行需要喚起
- 観光地人吉・球磨の復活②・・・57
球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”
- 球磨川流域大学構想（熊本県立大学の取組）・・・58
- 球磨川流域大学構想・・・60

■復旧・復興プランの実現に向けて

- 令和2年7月豪雨に係る職員確保状況・・・64
- デジタルを活用した創造的復興・・・65
- 球磨川流域復興基金を活用した市町村支援・・・67
- 将来に向けた持続可能な地域の実現に向けて・・・69
- 五木村の振興について・・・70
- 相良村の振興について・・・72



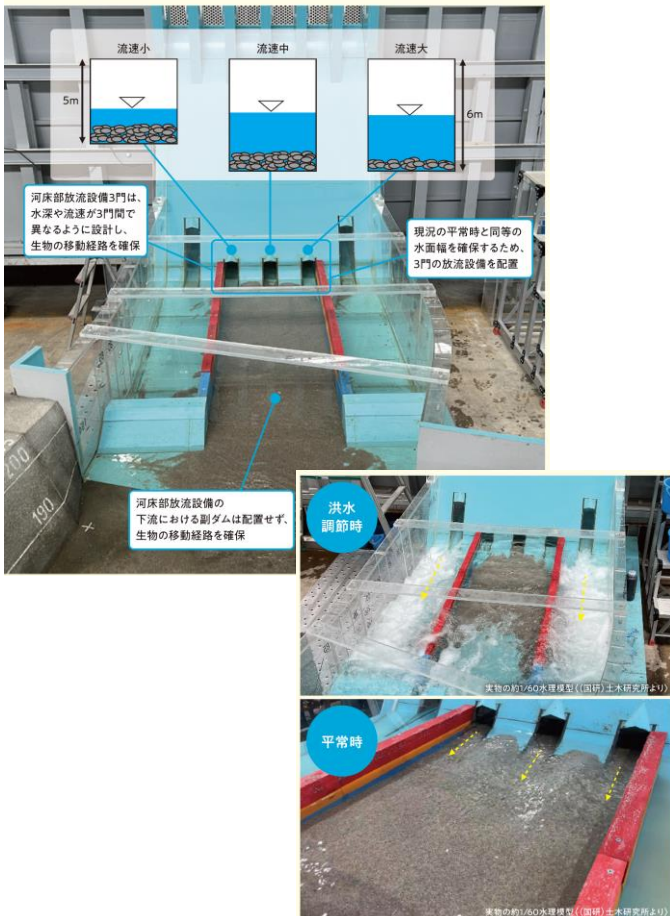
緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス

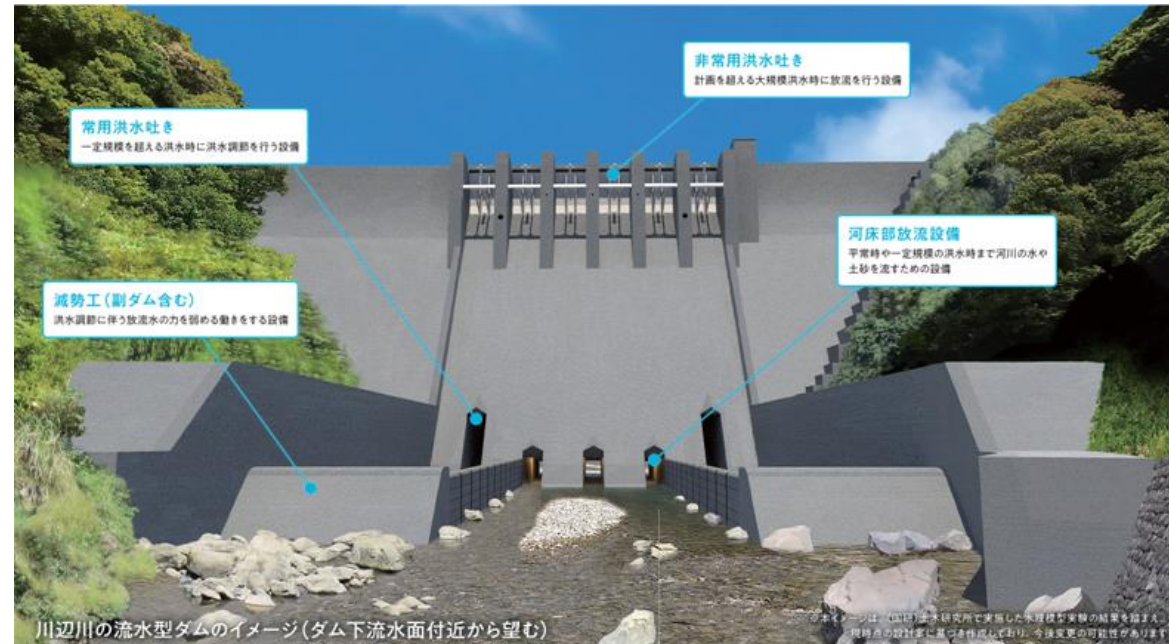
流水型ダムを進捗状況①(ダムの構造等の検討状況)

- 世界初の構造を有する流水型ダムとして、**平常時と洪水時で流れを分離するとともに、ダムサイトで確認された魚類は全て移動可能となるよう工夫される**ことが示された。
- また、更なる環境影響の最小化に向け、**環境アセスメントの手続き後においても、技術検討会【仮称】を開催し、ダムの構造や運用等の検討を追求**することが示された。

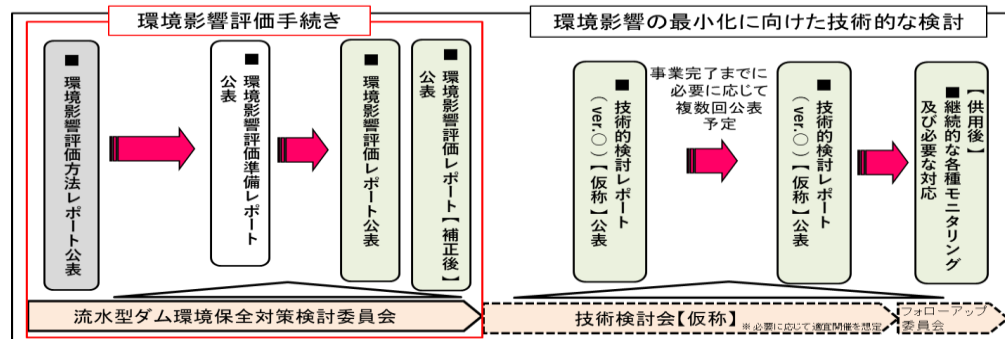
<実物の約1/60水理模型(国研)土木研究所>



<川辺川の流水型ダムのイメージ図>



<更なる環境影響の最小化に向けた技術的検討の進め方>



出展: 新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み第2回会議での説明資料(国土交通省作成)の一部を抜粋(一部加工)

流水型ダムの進捗状況②(新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み)

○新たな流水型ダムの「事業の方向性や進捗を確認する仕組み」を令和4年12月に設置。(第1回会議は令和4年12月25日開催)

【第2回会議】: 令和5年12月23日(土曜日)

流水型ダムの治水効果や環境影響評価の概要等について、知事も出席のもと流域の皆様と確認。また、流水型ダムに関する情報の県民への周知を図るため、新聞広告を実施。

【現地視察】: 令和6年3月9日(土曜日)

流水型ダムの整備により洪水調節地となる五木村への影響について、構成員の理解を深めるため、大型模型実験施設の視察を実施した。



第2回会議の様子 (マイクロ模型実験)

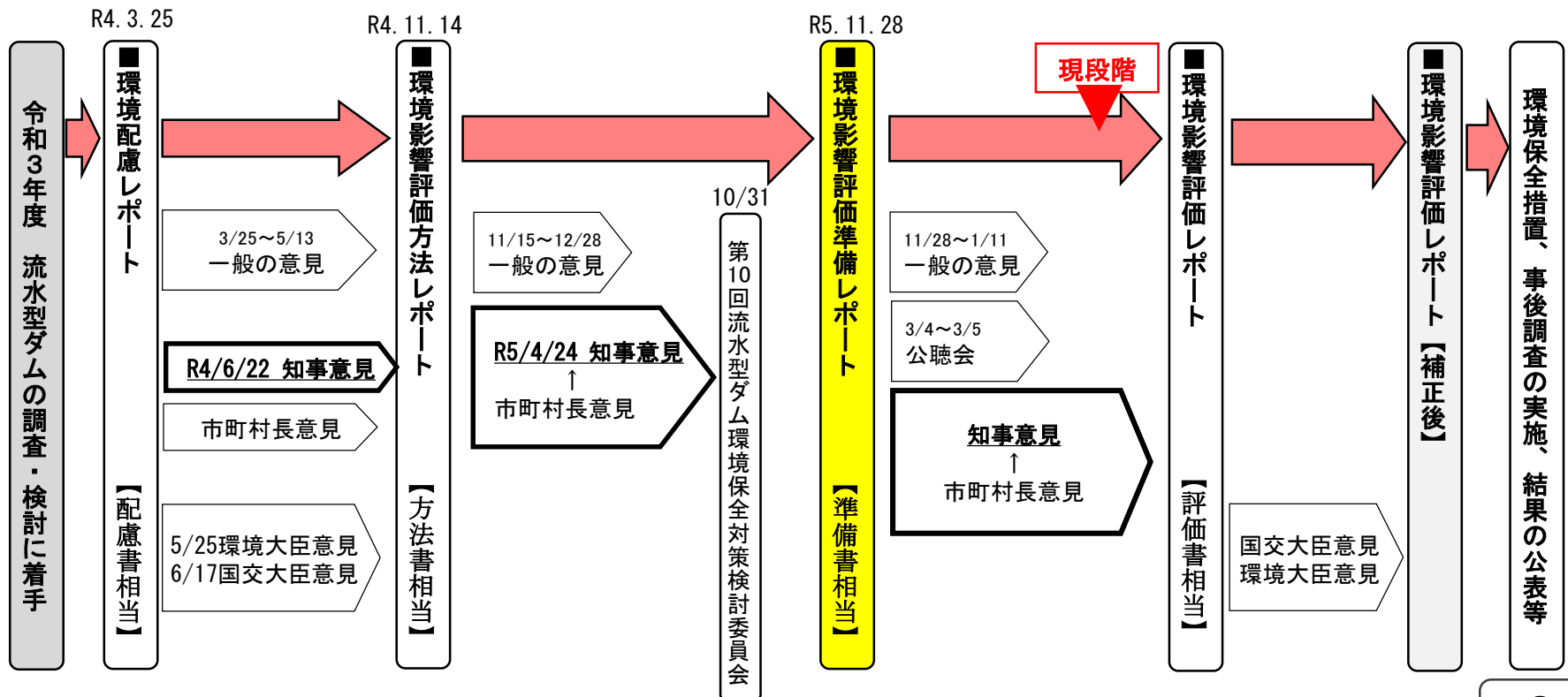


現地視察の様子 (大型模型実験施設の視察)

流水型ダムの進捗状況③（環境アセスメント）

○令和5年11月28日付けで、国において、「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価準備レポート」が公表され、県アセス審査会や関係市町村長意見、一般意見の概要及び事業者見解、公聴会での意見等を踏まえ、今後知事意見を提出する予定。

○今後、国において知事意見や一般の方々からの意見の内容等を踏まえ、必要に応じて準備レポートの内容を見直したうえで、環境影響評価レポートが作成・公表される予定。



堆積土砂の撤去など河川の緊急対策(国管理区間)

重点10項目

- 令和2年7月豪雨以降、球磨川河道内の掘削を行っており、令和6年3月末現在で約240万m³を撤去。(※)
- 今後も、球磨川河道内の掘削を継続して行っていく。

(※) 令和2年7月豪雨で堆積した土砂(推定)約125万m³は、令和4年1月末に掘削完了。更に令和6年3月末までに約115万m³を掘削(進捗率:約36%、流域治水プロジェクト:約115万m³/計画:約320万m³)



【工事着手前】

【工事中】



【工事着手前】

【工事完了後】



<発災直後の状況及び発災後の取組み>

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・令和2年7月豪雨による堆積土砂の撤去完了(R3)。
- ・以降、継続的に必要な土砂撤去を実施。
- ・令和6年2月末までに県管理河川：約153万m³(※)、市房ダム：約66万m³の堆積土砂を撤去。

(※)球磨川流域市町村+津奈木町における数量

◆ 河川情報の充実

- ・水位計15基、河川カメラ35基を増設。(※)
- ・夜間でも河川の状況が確認できるよう、河川カメラへの照明設備38基追加。(※)

(※)R2.7月発災以降の合計、権限代行含む

万江川 (山江)



大谷川 (錦町)



<今後の取組みの方向性>

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・引き続き、流域住民の声をお聞きしながら、河川の流下能力の維持・向上やダムの洪水調節容量の確保を図る。

◆ 河川情報の充実

- ・引き続き、流域住民の声をお聞きしながら、水位計・河川カメラの増設を検討。

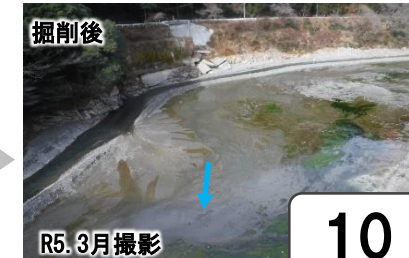
川辺川 (相良村)



川辺川 (五木村)



市房ダム (水上村)



被災した河川管理施設の復旧(県管理区間)

重点10項目

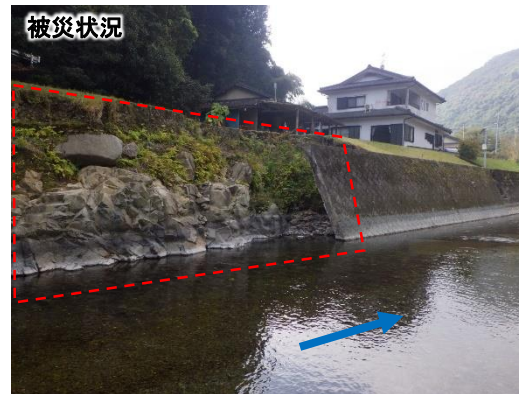
＜発災直後の状況及び発災後の取組み＞

- 被災した全394箇所、約177億円(県管理の河川)について、現在、災害復旧事業を実施。
- 県による復旧箇所については、全394箇所に着手し、令和6年2月末までに285箇所を工事完了。

＜R5年度末の到達状況・

今後の取組みの方向性＞

1日も早い復旧復興に向け、**年度末までに344箇所完了**見込み。
残り50箇所のうち**7箇所は、今年の出水期までに完了**、それ以外は令和6年度末までに完了見込み。



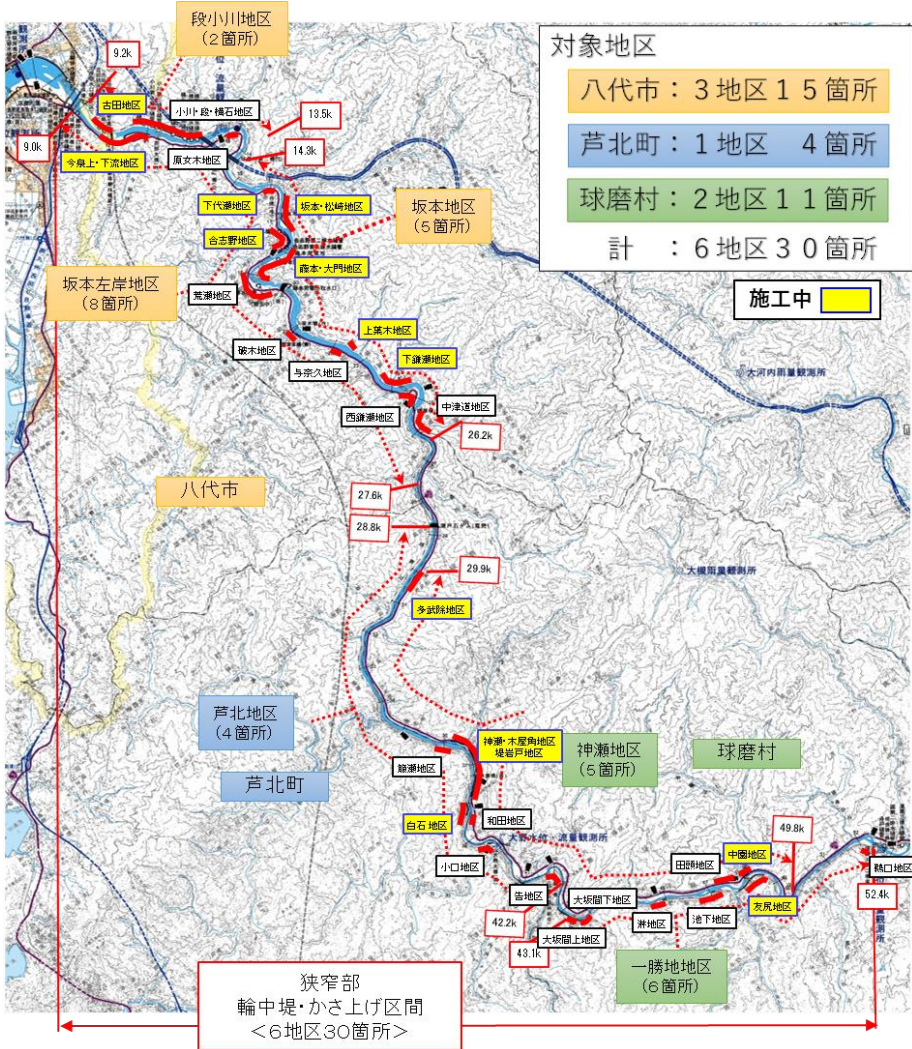
永野川(人吉市)

万江川(山江村)

川辺川(相良村)

球磨川における輪中堤・宅地かさ上げの進捗状況

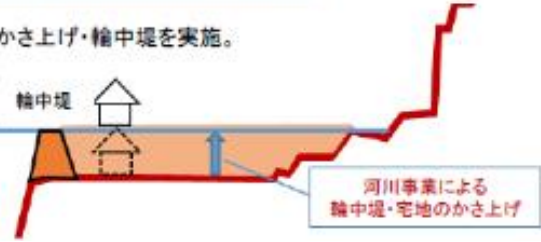
- 輪中堤・宅地かさ上げについて、球磨村神瀬地区では令和5年2月、芦北町では令和5年8月、八代市坂本町では令和5年9月にそれぞれ工事に着手。
- 令和6年3月末現在、6地区13箇所 で工事実施中。



<河川事業における宅地かさ上げ・輪中堤対策の概要>

高水位＋余裕高の水位を基本として宅地かさ上げ・輪中堤を実施。

治水対策実施後の水位
(計画高水位＋余裕高 相当)



※必要に応じて自治体のまちづくりと連携して更なる宅地かさ上げを実施する地区もある。

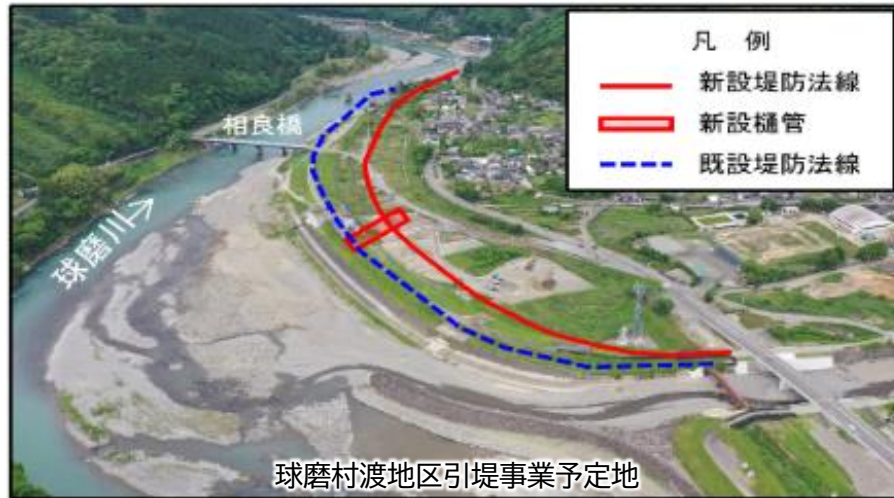
◆令和6年2月末現在の状況(球磨村神瀬地区)



引堤・遊水地【国管理区間】の進捗状況

○引堤・遊水地について、相良村柳瀬地区の遊水地事業は令和5年8月、球磨村渡地区の引堤事業は令和5年9月に、それぞれ着工。

○人吉市中神地区等においても、説明会等を行いながら、住民との合意形成に向けた取組みを進めている。



相良村柳瀬遊水地
SDGs標識除幕式 (R5.10.30)



説明会の状況(R5.12.15)
【人吉市中神地区】

治山・砂防による山の再生・強化(砂防)

重点10項目

<発災直後の状況及び発災後の取組み>

◆砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去

- ・令和2年7月豪雨後、**全17箇所**で撤去完了。
※うち1箇所で令和4年台風第14号に伴う土石流を再度捕捉。

◆砂防施設の復旧(237箇所)

- ・令和6年**2月末**までに、**236箇所**に着手。
うち133箇所完了。

※未契約1箇所について、進入路となる町道の災害復旧工事が未完了のため。

◆緊急的な砂防施設の整備(17箇所)

- ・令和6年**2月末**までに、**17箇所**に着手。
うち16箇所完了。

◆その他砂防施設の整備(23箇所)

(今後の土砂災害を防止するため計画的に砂防施設を整備)

- ・令和6年**2月末**までに、**14箇所**に着手。
うち2箇所完了。

<R5年度末の到達状況・今後の取組みの方向性>

◆砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去

- ・維持管理上、**必要な土砂撤去を継続**。

◆砂防施設の復旧(237箇所)

- ・**237箇所**に着手、**うち175箇所**完了見込み。
残る62箇所は、令和6年度末までに完了見込み。

◆緊急的な砂防施設の整備(17箇所)

- ・**17箇所**に着手、**うち16箇所**完了。
残る1箇所は、今年の出水期までに完了見込み。

◆その他砂防施設の整備(23箇所)

- ・**18箇所**に着手、**うち5箇所**完了見込み。
着手済みの13箇所は早期完了に向け工事を推進。
未着手*の5箇所は、令和6年度に工事着手見込み。
* 進入路となる村道の被災や、用地取得に不測の日数を要しているため。

○緊急的な砂防施設の整備(滝の上急傾斜地崩壊対策(芦北町))

令和2年7月豪雨時の急傾斜地崩壊状況



令和5年3月斜面対策工竣工(遠景)



被害の発生したがけ高78mの急傾斜地の崩壊拡大を未然に防止し、人家、町道等の保全に貢献!!

○緊急的な砂防施設の整備(大坪川-1砂防堰堤(津奈木町))

令和2年7月豪雨時の土石流発生状況



令和6年3月砂防施設の整備(近景)



溪流内の不安定土砂を約8,500m³捕捉可能!
人家、町道、公共施設等の保全に貢献!!

万江川流域の土砂・洪水氾濫対策(砂防)

重点10項目

- 令和2年7月豪雨では、万江川流域内で土砂・洪水氾濫(※)が発生した。
- 今後の出水で再び土砂・洪水氾濫が発生する可能性が高く、流域住民の生活や経済に与える影響を抑制するため、土砂・洪水氾濫対策に取り組んでいる。(都道府県として、全国で初めて『土砂・洪水氾濫対策』に取り組む。)

＜発災直後の状況及び発災後の取組み＞

- ・学識経験者による「万江川土砂・洪水氾濫対策検討委員会」を開催し、**砂防・河川・治山の3事業が連携した対策施設配置計画を取りまとめた。**
- ・上記3事業の事業主体が各施設の事業化に向け、位置や規模、構造等について順次検討中。

＜R5年度末の到達状況・今後の取組みの方向性＞

- ・委員会の検討結果を踏まえ、**砂防堰堤、流木捕捉工及び築堤等の対策施設について配置計画**を策定。
- ・対策の一部である**既設の砂防堰堤の除石工事に着手。**
- ・今後は、**その他の対策についても、順次測量設計や用地買収を行い、工事に着手する予定。**

令和2年7月豪雨時の
万江川土砂・洪水氾濫状況



検討委員会 室内会議
(令和5年8月)



万江川における
土砂・洪水氾濫対策のイメージ

上中流域における土砂・流木の流出対策
(砂防堰堤の設置、流木捕捉工の
設置等)



砂防

下流域における氾濫対策
(築堤等)

河川

上流域における土砂・流木の流出対策
(流木捕捉工の設置等)

治山

流木捕捉工 (イメージ)



凡例

- 砂防堰堤
- 河川整備計画
策定区間
- 治山ダム
- 人家

※土砂・洪水氾濫とは、豪雨により上流域から流出した土砂が下流の河道に堆積することで、河床上昇・河道閉塞が引き起こされ、土砂と泥水の氾濫が発生する現象。

治山・砂防による山の再生・強化(治山)

発災直後の状況及び発災後の取組み

森林区域の被災状況

(八代、芦北、球磨地域)

- ・溪流荒廃
- ・山腹崩壊
- ・治山施設被害
が多数発生

○直後からの取組み(R2~)

- ・治山ダムの土砂、流木撤去
- ・災害関連緊急治山事業
- ・治山施設災害復旧事業

○発災後の取組み(R3~)

- ・治山激甚災害対策特別緊急事業 (R3~R7:5年間)
- ・出水期前の防災パトロール



異常堆積した土砂・流木の撤去による治山ダムの機能回復(球磨村)



治山激甚災害対策特別緊急事業による山腹崩壊箇所の復旧(芦北町)

R5年度末の到達状況

治山事業による復旧状況

事業	全体箇所	令和5年度末見込み			
		契約	着手率	完成	完成率
土砂流木の撤去	17	17	100%	17	100%
緊急治山事業	67	67	100%	67	100%
施設災害復旧事業	17	14	82%	6	35%
激特事業	99	40	40%	19	19%
計	200	138	69%	109	55%

【参考】九州森林管理局が実施していた民直治山事業全36箇所は令和5年9月末をもってすべての工事が完了



今後の取組みの方向性

- ・令和2年7月豪雨災害に係る**復旧工事の早期完成**。併せて、**ソフト対策の実施**により、災害に対する**予防力の向上**。
- ・令和4年度から「**球磨南部地区**」及び「**五木地区**」において、流域保全総合治山事業により、森林整備及び治山ダム工・山腹工による**総合的な土砂・流木の流出抑止対策を実施**。
- ・令和6年度から川辺川上流の「**五家荘地区**」においても、同様に**対策を実施**。
- ・さらに、関係機関の連携強化を図るため、国(国交省・林野庁)、県(土木部・農林水産部)による「**人吉球磨地域砂防治山勉強会**」をスタート。



田んぼダムと農業用水利施設を活用した流域治水の取組み

重点10項目

発災直後の状況及び発災後の取組み



田んぼダムせき板設置式典



清願寺ダム

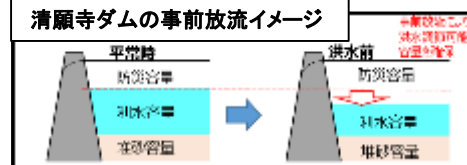
・田んぼダム推進のため、流域7市町村の水田約296haで実証実験を実施し、有識者委員会による検証で水田の貯留効果等を確認。

・令和2年度、流域治水プロジェクトに、農業用ダム、ため池等の農業用排水施設を位置づけ。さらに、農業用ダムは事前放流等により洪水調節を行う治水協定を締結。

R5年度末の到達状況



田んぼダムの推進（せき板配布）



ため池管理者研修（ため池サポートセンター）



・田んぼダムの取組みをリードする人材の育成、教育との連携や県民の理解促進に取り組んだ結果、**目標の540haを上回る617haまで取組みを拡大**。

・令和4年台風14号・令和5年台風6号の際、**清願寺ダムで事前放流**の取組みを行った。

・幸野溝等の用水路や球磨川流域のため池においても、降雨時に事前放流の取組みを行った。

今後の取組みの方向性

・田んぼダムの全県での普及・拡大を図るため、引き続き、各地の取組みをけん引する人材の育成、効果を周知する広報活動、専用排水柵へ入替えるハード整備の推進を行っていく。

・農業用ダムやため池等において、適切な管理と流域治水に資するよう遠隔監視システムの導入や事前放流が可能となる施設整備を働きかける。



教育との連携（田んぼダムイベント）

雨水貯留・浸透施設(雨庭)の整備

○令和3年11月から、「『流域治水を核とした復興を起点とする持続社会』地域共創拠点」の取組みがスタートし、雨庭のモデル整備による効果検証・普及拡大に向けた取組みを推進。
令和4年度、県有施設2箇所に雨庭をモデル的に整備。

＜令和5年度の取組状況＞

- ・ **令和4年度に整備した球磨地域振興局の雨庭**に、「緑の流域治水」や雨庭を周知するための看板を設置。
- ・ 球磨地域振興局の雨庭を活用し、人吉第一中の生徒を対象に勉強会を実施（座学や現地見学、植栽活動など）
- ・ **県有施設2箇所**に新たに雨庭を整備 ⇒ **県有施設4箇所**へ。研究における**効果検証フィールド**として活用。
- ・ **球磨川流域復興基金**による市町村への雨庭整備に対する支援のメニュー化。

【球磨地域振興局】



看板及び植栽作業の様子

【国道221号と県道上漆田東間下線交差点】



【球磨中央高校】



球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組み

< 発災後の取組み・今後の取組みの方向性 >

【河道整備】

- ・御溝川(人吉市)について、治水安全度の向上を図るため、二次放水路を整備中。
- ・**令和6年度の出水期までに治水効果が発揮できるよう、整備を推進。**



御溝川(人吉市) 二次放水路整備状況



御溝川(人吉市) 二次放水路整備状況

【宅地かさ上げ】

- ・油谷川や芋川等の対象となる各地区で令和5年3月より建物調査、地質調査、詳細設計を行い、説明会を順次実施。
- ・引き続き、詳細設計や建物調査等を順次行い、整備を推進。



坂本町宅地かさ上げ着工式(R5.9.10)



川辺川(相良村)遊水機能説明会(R5.5.22)

【遊水機能を有する土地の確保】

- ・遊水機能を有する土地の確保・保全の取組について、川辺川でR5.9月から用地買収に着手。
- ・令和5年度末までに詳細設計完了し、令和6年度工事発注予定。

【市房ダムの普及啓発】

- ・**あさぎり町などで開催された「防災学習」の場では、市房ダムのブースを設けて住民に説明するとともに、人吉市役所など全職員を対象に、市房ダムから発信情報等に関する説明会を開催。**また、**小学生向けのダム現場説明会も実施。**
- ・引き続き、ダムに関する理解を深めるため、他の市町村職員や住民への説明を行っていく予定。



あさぎり町防災学習(R5.10.21)

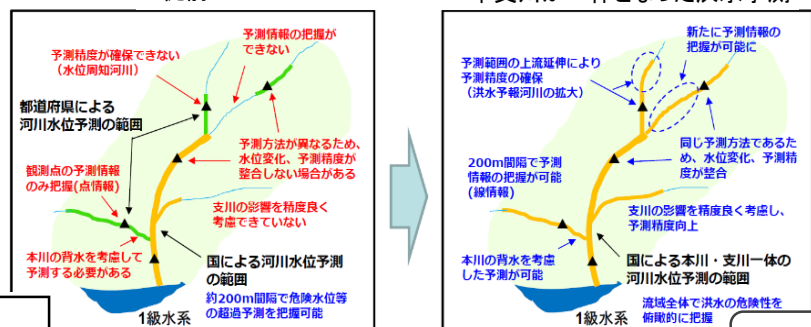


ダム現場見学会の状況(R6.1.13)

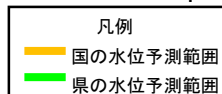
本支川が一体となった洪水予測

【洪水予報】

- ・令和5年5月の気象業務法等の改正により、本川水位の予測情報を活用した支川の洪水予報が可能。令和5年6月に国と県が**本支川一体で行う「予測水位情報の提供に関する協定」を締結。**
- ・今後、**3支川(胸川、万江川、川辺川)を洪水予報河川へ移行し、早期避難の加速化を図る。**



洪水予測の範囲(イメージ)



“いのち”を守る防災・減災力の強化

発災直後の状況及び発災後の取組み

- 自然災害に対しては、5段階の警戒レベルの周知を図ってきたが、「自分のところは大丈夫」と考え、避難を行わない人や避難が遅れた人がいた。
- これを受け、確実な避難による“逃げ遅れゼロ”を実現するため、住民に「自分の命は自分で守る」意識を醸成し、明るいうちの早めの避難を促すため、**令和3年度からマイタイムラインの普及等を実施。**



マイタイムライン専用WEBサイト



作成支援動画

R5年度末の到達状況

マイタイムラインの普及

- ①「くまもとマイタイムラインガイドブック」作成 (R3.3)
- ②ガイドブック要約版を全世帯に配付 (R3.5)
- ③専用Webサイト開設 (R3.9)
- ④ガイドブックを全中学生へ配付 (R3.11)、以降、毎年4月に新中学1年生に配付
- ⑤防災教育モデル授業をR5年度末までに40校で実施、防災教育教材・マニュアルの作成 (R4.9～)
- ⑥作成支援動画の制作・YouTubeでの公開 (R4.10)
- ⑦テレビやラジオ、県からのたより等での作成の呼びかけを継続的に実施
- ⑧自主防災組織や自治会等において、マイタイムライン作成講座を実施



防災教育モデル授業の様子



防災教育教材

今後の取組みの方向性

- ・ ガイドブックの全中学生への配付、教職員向け研修会等を継続。
- ・ 県政広報媒体等での作成呼びかけを行うことで普及啓発を図る。
- ・ 新たに外国人向けの翻訳版ガイドブック(タブロイド版)を作成。(英語、中国語、台湾語、韓国語、ベトナム語)



“いのち”を守る防災・減災力の強化

発災直後の状況及び発災後の取組み

○ 県内防災士(R2.3末時点 2,813名)をさらに養成するため、県内10箇所地域防災リーダーの養成講座「火の国ぼうさい塾」を開催。

○ 地区防災計画(流域市町村作成率7.2%)について、県の自主防災組織活動支援員により作成を支援。



地域防災活動支援プログラム

○ 流域5市町村のみで実施していた住民参加型訓練を他市町村に広げるための支援を実施。



リアルハザードマップ(あさぎり町)想定浸水

○ リアルハザードマップの作成を促進し、危険性を周知。

○ 令和3年5月に災害対策基本法が改正され、避難行動要支援者の避難行動を支援するため、市町村における個別避難計画の作成が努力義務化。

R5年度末の到達状況

地域防災リーダーの養成

「火の国ぼうさい塾」で約1,695名の防災士を育成し、県内の防災士は4,475名となった。



第24回火の国ぼうさい塾(人吉市)
※救命救急講習

地区防災計画の作成推進

球磨川流域13市町村で地区防災計画作成率50%を達成



県支援による地区防災計画作成(人吉市)

住民避難訓練の実施

球磨川流域13市町村において住民参加型避難訓練を実施



水害避難訓練(水俣市)

リアルハザードマップの設置推進

市町村、自主防災組織による整備を推進し、13市町村76箇所設置済。



避難行動要支援者の個別避難計画取組事例集

個別避難計画の作成

同意者に対する個別避難計画の作成率100%達成。

モデル地区で優良事例創出、取組事例集を作成。避難行動要支援者の個別避難計画取組事例集

今後の取組みの方向性

- ・ 今後も「火の国ぼうさい塾」や防災士スキルアップ研修を継続し、地域防災リーダーの育成に取り組む。
- ・ 引き続き、地区防災計画作成や住民参加型訓練の実施を支援。
- ・ リアルハザードマップを設置する市町村への整備促進の支援を継続。
- ・ 個別避難計画の実効性の更なる向上を推進するため、市町村職員や支援者等に対して研修やアドバイザー派遣を実施。



リアルハザードマップ(球磨村)実績浸水



第25回火の国ぼうさい塾(八代市)

“いのち”を守る防災・減災力の強化

発災直後の状況及び発災後の取組み

- 停電や通信回線の遮断が各地で発生し、住民への避難情報の伝達や市町村からの被害情報等の収集に支障をきたしたことから、確実な情報伝達のため、**市町村における防災行政無線戸別受信機の設置を支援。**



防災ラジオ(戸別受信機)

- 県・市町村防災担当職員の初動対応力の向上と、関係機関(警察・消防・自衛隊等)との連携強化のため、令和2年7月豪雨規模の災害を想定したブラインド型図上訓練を令和3年1月から開始。



防災センター完成式
(R5.5.17)

- 過去の災害経験をふまえ新たに**防災センターを整備**(令和5年5月運用開始)し、九州を支える広域防災拠点としての機能も確保。

R5年度末の到達状況

戸別受信機の設置

令和4年度の出水期までに、球磨川流域の全市町村において、**希望する全世帯への設置完了。**

防災情報通信体制の強靱化

県内市町村、各消防本部間における地域衛星通信ネットワーク第3世代システム整備のため、令和7年度までの整備計画を策定。令和5年度から整備に着手。

豪雨対応訓練の実施

令和3年1月から毎年全市町村を対象に実施し、**令和6年1月から4巡目となる訓練を開始。**

また、円滑な情報収集に向け、防災情報共有システム操作研修やLO研修を適宜実施。



県での訓練の様子

今後の取組みの方向性

- ・ これまでの訓練や実災害での成果・課題を踏まえ、訓練シナリオをブラッシュアップしながら訓練を継続。
- ・ 東大先端研(ClimeCORE)と連携し、全国で初めて「気象再解析データ」と「キキクル」を連動させた訓練等、科学的根拠に基づいた防災・減災の新たな取組みを実施。
- ・ 被災自治体等と県との防災通信体制を一層強靱化・多重化するため、衛星通信を用いた地域衛星通信ネットワーク第3世代システムを令和7年度までに整備。



地域衛星通信ネットワーク第3世代のイメージ図

危機感共有と命を守る災害報道連携会議

〈災害報道連携会議の取組みと成果〉

- 在熊TV5局で**早期避難を呼びかけるテレビスポットを制作**。令和4年度水防功労者九州地方整備局長表彰を受賞。
- 令和5年度は**5月29日から9月30日まで**テレビ各局で**放映**。

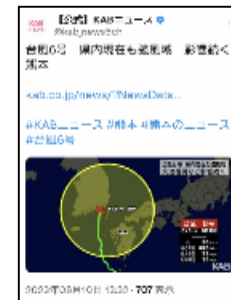


早期避難を呼びかけるテレビスポット

- 令和4年台風14号など、被害が予想される際には**複数回臨時ワーキングを開催**し、最新の気象・防災情報を共有。自治体の**早期の避難所開設や避難情報発信**、報道機関の**早期の報道体制の整備**(L字放送の入力準備等)につなげた。
- 令和5年度出水期には、6回の臨時ワーキングを開催し、**最新の気象・防災情報の共有**を実施。
- 令和6年2月22日に連携会議**報告会**を開催し、**これまでの成果発表やパネルディスカッション**を行った。



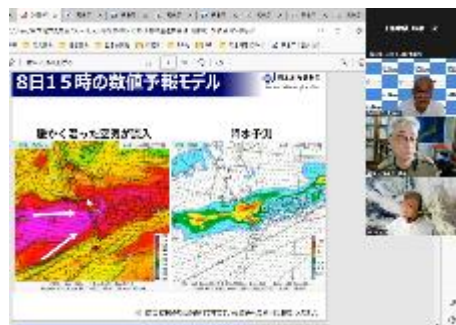
災害報道連携会議 報告会



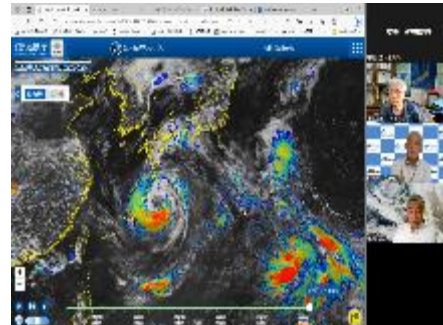
(早期の発信) SNS速報記事



臨時ワーキングの開催状況(オンライン)



臨時ワーキングでの気象台からの情報提供



臨時ワーキングでの専門家による分かりやすい解説



L字TV放送の実施

“いのち”を守る防災・減災力の強化

人吉球磨地域2消防本部の消防指令共同化

＜発災から3年の取組と成果＞

令和2年7月豪雨災害時には、2消防本部間で災害情報を共有できず、災害対応に支障。

- ・災害情報の一元化による迅速な相互応援体制の確立
- ・効率化による災害現場要員の増強 などの

災害対応力強化を図るため、県では、両消防本部が躊躇なく共同化を進められるよう交付金の創設や連携・協力実施計画書策定支援などを実施。



成果: 令和7年4月1日運用開始に向けたシステム整備

消防指令の共同運用スケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
連携協力・実施 計画書作成	基本・実施 設計	共同指令 センター整備	運用開始

＜今後の取組み＞

人吉球磨地域の2消防本部が令和2年7月豪雨災害の経験をもとに、広域連携の強化など、より一層の「**消防力の強化**」に取り組んでいけるよう財政支援、業務支援を継続。

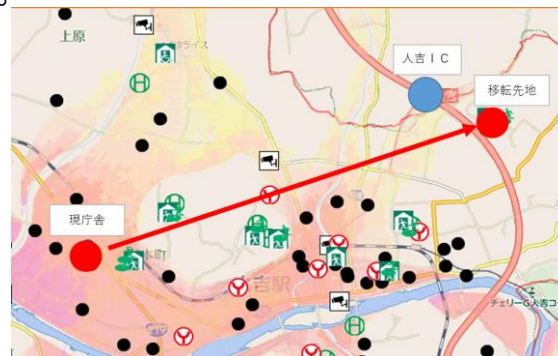
人吉下球磨消防組合本部庁舎及び中央署の移転

＜発災から3年の取組と成果＞

令和2年7月豪雨災害時に、人吉下球磨消防本部庁舎が浸水し災害対応に支障。



災害救助拠点の災害対応力の強化を図るため、人吉下球磨消防本部庁舎の浸水想定区域外への移転について、県では、国への支援拡充の要望や財源活用に向けた関係課との調整などの支援を実施。



成果: 移転先地の決定及び令和9年度供用開始に向けた基本設計、地盤調査の実施

流域治水プロジェクト【ソフト対策の取組状況】

～「緑の流域治水」の取組み等の見える化～

○「緑の流域治水」について、球磨川流域住民をはじめ広く県民に情報を発信するための見える化の取組みとして、「緑の流域治水」の取組みを分かりやすく伝える動画や模型、パンフレットを制作。
また、若い世代にも広く発信するため、新たにSNS(Instagram)の開設や、小学生向けの動画を制作。

動画

解説動画



小学生向けの動画



ノベルティグッズ



ピンバッジ



付箋

模型



パンフレット



SNS



ブース出展

(くまもと産業復興エキスポ)



すまい・コミュニティ
の創造

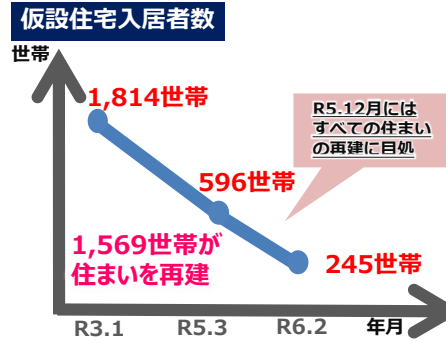
発災直後の状況及び発災後の取組み



仮設住宅への訪問・見守り

- ・住まいの再建意向や、日常生活での課題等について、意向調査を実施。
- ・再建の目処が立っていない世帯に対しては福祉関係機関とともに個別ケース会議等を行い、課題解決のため伴走型による重点支援を実施。
- ・仮設住宅入居者等への、地域支え合いセンターを中心とした見守り・支援、コミュニティ形成支援を実施。

R5年度末の到達状況



住民同士の活動状況

- ・令和6年2月末現在で、ピーク時(令和3年1月末)の約9割の世帯が住まいの再建を実現。残りの方(245世帯483人)についても再建の目処が立っている。
- ・災害公営住宅等入居後の必要な見守り、支援の継続、住民主体のコミュニティ形成支援を行っている。

今後の取組みの方向性

- ・最後のお一人が住まいの再建を果たされるまで、寄り添った支援を継続していく。
- ・引き続き、必要な見守り・支援を継続するとともに、住民主体のコミュニティ形成を支援する。

発災直後の状況及び発災後の取組み



木造仮設住宅 (R2年8月完成時)



松葉仮設団地(くまもとモデル第1号)

- ・令和2年12月までに建設型応急仮設住宅808戸(木造仮設住宅740戸)が完成。
- ・被災された方から「このまま木造仮設住宅に住み続けたい。」等の声を数多くいただいた。
- ・令和4年8月、木造仮設住宅を被災者の住まいの再建先として利活用が始まる。(くまもとモデル)

R5年度末の到達状況

錦町へ部分譲与予定の大王原公園仮設団地



球磨村グラウンド仮設団地

令和5年12月 球磨村へ部分譲与済

- ・木造仮設住宅の約5割を市町村に譲与し、被災者の住まいの再建先等として利活用される見込み。

今後の取組みの方向性

- ・残る約5割の木造仮設住宅について、球磨川流域復興基金を活用し、被災された方々の再建先住戸や創造的復興に資する施設等として利活用が進むよう、今後も各市町村と連携して取り組み、随時譲与を進めていく。

本格的な住まいの再建(災害公営住宅等)

重点10項目

< 発災後の取組み >

・災害査定、発注・設計・工事での支援を行い、発災から約3年半となる令和5年12月までに、**全体5市町村12地区282戸**のうち、**9地区221戸**の災害公営住宅等が完成。

完成 (9地区221戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
相良村	西原	2戸	令和4年12月
八代市	合志野	4戸	令和5年4月
	中津道	1戸	令和5年7月
	藤本・大門	5戸	令和5年10月
球磨村	一勝地	8戸	令和5年7月
	渡	60戸	令和5年9月
芦北町	佐敷	9戸	令和5年9月
	湯浦	12戸	令和5年10月
人吉市	相良町	120戸	令和5年12月

工事中 (1地区44戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
人吉市	東校区	44戸	令和7年2月

設計完了 (1地区10戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
八代市	坂本町松崎	10戸	令和7年度中

設計中 (1地区7戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
球磨村	神瀬	7戸	令和6年度中

< R5年度末の到達状況・今後の取組みの方向性 >

・全体12地区282戸のうち、**9地区221戸 (全体の約8割) の工事が完了。**
 ・残り3地区61戸について、令和6年度中に2地区51戸、令和7年度中に1地区10戸の早期完成に向けて、市町村への支援を継続。



人吉市の復興まちづくりに向けた取組み

重点10項目

- **中心市街地地区** 土地区画整理事業の認可(R5.3.7)を受け、復興まちづくり推進協議会等での検討や山田川整備等との連携をふまえ、4月に側溝工事から着手し、準備が整い次第、道路や宅地造成等の本格的な工事に着手予定。(R10年度完了予定)
- **青井地区** 土地区画整理事業及び国道445号改築事業の着工式を2月4日に実施。現在、道路や宅地造成等の本格的な工事に着手。(土地区画整理事業:R10年度完了予定、国道445号改築事業: R13年度完了予定)
- **災害公営住宅の整備** 相良町についてはR5.12竣工、R6.1入居開始。東校区についてはR6.2工事着手。
- **中川原公園の復旧** 国による地盤下げ工事が完了(R5.3)。市による災害復旧工事は、R5、R6年度で施工予定。
- **モソカタウン** 令和5年11月末までに全店が営業を終了(入居店舗の再建完了)

●災害公営住宅の整備(相良町)



公営住宅内の集会所で開催された入居者参加の茶話会の様子

●青井地区の復興まちづくり整備計画案



土地区画整理事業及び国道445号改築事業着工式(R6.2.4開催)

●中川原公園の復旧 ※R6.3現在



●モソカタウン



被災市街地復興推進地域



土地区画整理事業区域



●中心市街地地区の復興まちづくり整備計画案



球磨村の集落再生に向けた取り組み

重点10項目

- 被災者の一日も早い生活再建を図るため、県が村から事業を受託し施行している**塚ノ丸団地(第1期・27区画)の工事が令和6年3月に完了予定**。3月11日には、蒲島知事が松谷村長に整備状況を報告。
- 甚大な被害が発生し、人吉市の仮設の建物で運営していた**特別養護老人ホーム「千寿園」が令和6年1月に球磨村内に再建**。

球磨村に再建された千寿園



渡地区で実施予定の事業

【くらし】	災害公営住宅	・総合運動公園遊具エリア (R5年9月入居開始)
	村有住宅	・総合運動公園芝生エリア・総合グラウンド一部 (R5年度中供用開始予定)
	宅地整備・分譲	・宅地整備【塚ノ丸団地】 ・宅地分譲【一王子団地】 (R4年度供用開始)
【そなえ】	流域治水の推進	・遊水地(山口・地下・今村) ・引堤(茶屋・舟戸)
	防災拠点	・総合運動公園敷地内 ・村道内布線 ~ 塚ノ丸団地 ~ 総合運動公園
	避難路	・峯、島田地区(拠点間を結ぶ避難路、避難歩道) ・小川地区(地区内道路)

被災住宅移転促進宅地整備事業に係る県から村への報告の様子 (R6. 3. 11)

渡地区の復興まちづくりイメージ

八代市坂本支所の再建及び支所周辺まちづくりの推進

重点10項目

- 八代市では、令和5年2月24日に**坂本支所等整備基本計画**を取りまとめ、**坂本支所及び周辺の整備方針を決定**。
- 現在、県道中津道八代線や支所等用地の造成工事中であり、**令和7年末完成予定**。
- 併せて、宅地かさ上げや**河川防災ステーション**の整備等と連携したまちづくりを推進。



令和4年度

坂本支所等解体
用地測量・買収
基本計画(配置・規模)

令和5年度～

基本・実施設計
造成・建設工事

令和7年末

坂本支所再建

坂本支所・災害公営住宅等用地の造成の様子(R5.3)

なりわい(生業)・
産業の再生と創出

発災直後の状況及び発災後の取組み



「緑屋本店」の被災状況（人吉市）

「なりわい再建支援補助金」により、被災事業者の施設・設備の復旧を支援



九日町通りの発災直後の状況（人吉市）

事業継続に向け、仮設商店街の開設とともに、にぎわい回復のためのイベント開催を支援

R5年度末の到達状況



「緑屋本店」の復旧状況（人吉市）

補助金の交付決定 **507件**

復旧完了 **500件**
(完了率 **98.6%**)

※令和6年3月末時点（見込）



八代市さかもと復興商店街

5ヶ所の仮設商店街のうち、**2ヶ所（人吉市）**は仮設解消（入居者の再建完了）

今後の取組みの方向性

- ・ なりわい再建支援補助金の活用を希望する被災事業者全ての復旧が完了するまで、本補助金を継続。
- ・ 事業再建が実現するまで、仮設商店街での事業継続を支援。



「球泉洞休暇村」の復旧状況（球磨村）



一勝地地区（球磨村）

発災直後の状況及び発災後の取組み

- ・ 企業立地促進補助金の要件を緩和し、補助率を嵩上げた「球磨川流域復興枠」を創設するとともに、サテライトオフィスの設置等による、企業誘致、産業創出を推進。
- ・ 「地域共生型再エネ施設」の導入に向け、陸上風力及び太陽光発電について、自然環境・景観・防災面に配慮した再エネ促進区域の県基準及びゾーニング図を検討。



陸上風力ゾーニングに係る協議会

R5年度末の到達状況

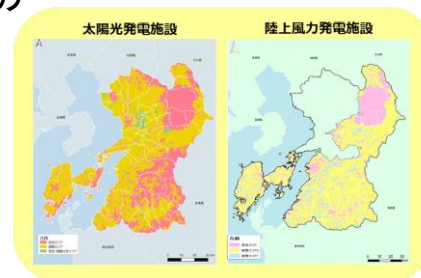
- ・ 企業立地促進補助金「球磨川流域復興枠」を活用した立地協定 **12件**
- ・ サテライトオフィスの設置等による産業の創出 **22件**
- ・ 陸上風力及び太陽光発電の再エネ促進区域設定のための県基準及びゾーニング図を作成・公表。
- ・ 「人吉・球磨地域復興支援人材確保ワンストップ就労相談窓口」を開設し、人材確保や雇用機会の創出を支援。
- ・ 「くまもと産業復興エキスポ」を開催し、被災企業の復興をアピールし、ビジネスチャンスの創出・拡大を後押し。



(株)イービーケーエスエス立地協定(人吉市)



芦北サテライトオフィス田浦(芦北町)



県基準に基づくゾーニング図



ワンストップ就労相談窓口除幕式(人吉市)

今後の取組みの方向性

- ・ サテライトオフィスの設置や立地促進補助金を活用した企業誘致活動を、関係市町村とともに引き続き展開。また、八代地域に県営工業団地を整備することで、球磨川流域を含めた県南地域への企業誘致に意欲的に取り組む。
- ・ 市町村が速やかに再エネ促進区域を設定できるよう、県基準等に基づき支援を実施。
- ・ 求職者とのマッチング支援に加え、企業の採用力向上にも注力。

農林水産基盤の復旧

発災直後の状況及び発災後の取組み

農林水産関連の被災状況

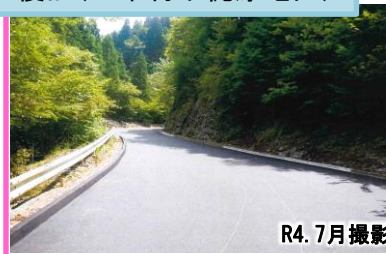
営農用施設
農地・農業用施設
林道など
5,784箇所が被災

災害復旧工事に係る市町村への支援状況

- 令和2年7月以降、6市町村に対し、農業土木技術職員及び林務技術職員延べ203名を応援派遣。
- 令和5年度は進捗率が低い市町村に対し、職員を派遣
(農地・農業用施設) 球磨村 1名
(林道) 五木村 1名
- 大規模災害(農)については、県営で実施(芦北町鶴木山工区ほか8工区)



林道災害復旧事業による林道の復旧(五木村下梶原地区)



R4. 7月撮影



県営災害復旧事業による農地復旧(芦北町宮浦地区)



R4. 5月撮影

【参考】なりわい再建支援補助金活用による復旧(錦町ゼンカイミート)



R5. 9月撮影

R5年度末の到達状況

(件数ベース)

施設	進捗率
営農用施設	100% (3,726/3,726)
林・水産施設	100% (7/7)
農林業者による応急復旧・自力復旧	100% (711/711)
農地・農業用施設	90% (779/867)
林道	64% (301/473)
合計	95.5%

今後の取組みの方向性

- 残された復旧・復興工事の早期完了
- 復旧した農林水産基盤を活用し、創造的復興・緑の流域治水の具現化

球磨川流域を中心とした県南地域の農林水産業の展望



くまものGI産品



五木村特産“くねぶ”振興



ジビエ振興



林業大学校県南校の強化



県有林の利活用

五木村振興 豊富な森林資源を活かし、林業を核にした“グリーン成長”を実現していきます。

県南フードバレー構想

八代地域を始めとした県南地域活性化の起爆剤として、豊富な農林水産物を活かし、地域の活性化を目指します。

PR発信
(フェスタ等)



被災地域への企業の農業参入を支援
(亀萬酒造合同会社)



水俣芦北地域振興

豊富な農林水産物を活かし、環境との共生する持続可能な地域づくりを目指します。



豊富な水産物



加工用ばれいしょの栽培展示園での機械化一貫体系の検討



新たな品種“ゆうばれ”

県南地域のこれまでの成果を

伸ばす

広げる

掛ける

相良村振興

相良村が掲げる『未来につながるむらづくり』の実施に向け、農林水産業の振興を支援していきます。



(現況)



(計画)

高原地区畑地帯総合整備



用水スタンド(イメージ)



基幹林道四浦西線 (イメージ)

人吉球磨地域

球磨川流域の豊富な水資源を活かし、地域に根差した農林水産業を展開していきます。



たけのこブランド化 ((株)小林衛生公社)

球磨村初の農事組合法人“球米”



国内ハラル牛肉のハイクォリティ “ゼンカイミート”



清願寺ダム、幸野溝、百太郎溝などの農業用施設

球磨川流域のゼロカーボンの取組み

球磨川流域では、①県補助による**住宅の断熱化**に加え、市町村の②**ゼロカーボン宣言**や③**脱炭素先行地域**の取組みなど、県内でも先行的に脱炭素化が進んでいる。

①住宅の断熱化

- 県では**住宅の断熱リフォーム**等へ補助を行う「球磨川流域CO2削減住宅補助金」を創設。
- 事業期間の令和3年度から令和5年度までに**388件**(新築370件・リフォーム18件)を補助。



②ゼロカーボン宣言


- **6市町村**が「2050年CO2排出実質ゼロ」を表明。
→八代市・人吉市・五木村・山江村・球磨村・あさぎり町

③脱炭素先行地域

- **球磨村・あさぎり町**は環境省の「脱炭素先行地域」に選定され、先行的に脱炭素に取り組んでいる。

球磨村 (第1回公募) 「脱炭素×創造的復興」による
ゼロカーボンビレッジ創出事業

- ✓ 災害公営住宅や公共施設等への**太陽光発電導入**
- ✓ **スクールバス**等のEV化
熊本大学・村・県が連携し、**小中学校で電動スクールバス**を運行する実証試験を実施 (R3~R5、環境省委託)



あさぎり町 (第3回公募) 農業・畜産業の力をフル活用した農村地域脱炭素モデル

- ✓ 農家・畜産農家、牛舎屋等への**太陽光発電導入**
- ✓ 筍生産の竹林や林業由来の原料を活用した「**バイオ炭入り牛糞堆肥**」による**有機農業推進**及びCO2貯留

➡ 「ゼロカーボン」と「球磨川流域地域の復旧・復興」の両立に向けて、引き続き市町村の脱炭素の取組みを支援

地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入推進

球磨川流域における新規小水力発電所の開発可能性調査等

< 発災後から令和5年度までの取組み >

- ① 令和3年度から開発可能性調査を行い、
候補地点2か所(水上村1・山江村1)を抽出
令和4年度から砂防堰堤を対象とした調査を行い、
候補地点2か所(山江村2)を抽出
令和5年度から、上記の候補地点4か所を対象とした
流量調査を開始
- ② 市町村等が取り組む小水力発電施設整備等への
技術支援について関係者へ周知



【砂防堰堤の活用例】

< 今後の取組みの方向性 >

- ① 流量調査の結果を踏まえ、更なる絞り込みを行い、
令和6年度中の計画地点選定を見込む
- ② 市町村や地域団体が取り組む小水力発電施設
整備等への技術支援を実施(継続)

年度	取組内容
R5~R6	流量調査 → 計画地点選定
R7~	計画地点の基本設計、測量等

電気事業等による地域貢献の取組み

復旧・復興プラン関連事業等への支援(一般会計への繰出金の充当)

令和3年度 事業名(充当額)	令和4年度 事業名(充当額)	令和5年度 事業名(充当額)	令和6年度(予定) 事業名(充当額)
合計 351百万円	合計 329百万円	合計 429百万円	合計 422百万円
● 高等学校等通学支援事業 (285百万円)	● 高等学校等通学支援事業 (209百万円)	● 高等学校等通学支援事業 (201百万円)	● 高等学校等通学支援事業 (222百万円)
● 単県ダム堆砂排除事業 (51百万円)	● 単県ダム堆砂排除事業 (100百万円)	● 単県ダム堆砂排除事業 (200百万円)	● 単県ダム堆砂排除事業 (200百万円)
● 球磨川流域ゼロカーボン 先進地創出事業 (10百万円)	● 球磨川流域ゼロカーボン 先進地創出事業 (20百万円)	● 球磨川流域ゼロカーボン 先進地創出事業 (20百万円)	
● 球磨川流域水産資源回復 事業 (5百万円)		● 地域共生型再エネ導入 推進事業 (8百万円)	

企業局未利用財産(荒瀬ダム関連施設跡地)を復興事業用地として八代市に無償譲渡

< 発災後～令和5年度末までの成果 >

① **藤本発電所合宿舎跡地(848㎡) ⇒ 譲渡済み(R5.10.31)**



① 藤本発電所合宿舎跡地

< 今後の取組み >

②-1 藤本発電所跡地(6,811㎡)

②-2 西鎌瀬浸水土地買収地(172㎡)

⇒ 国の嵩上げ事業完了後、
令和7年度に譲渡予定



②-1 藤本発電所跡地



②-2 西鎌瀬浸水土地買収地

災害に強い
社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

<発災後の取組み>

◆集落アクセス

- ・令和3年7月までに166集落へのアクセス道路応急復旧完了。
- ・アクセス道路の本復旧工事は、943箇所のうち令和6年2月末までに921箇所着手し、内794箇所は完了。

◆国道219号および対岸道路(国の直轄代行)

- ・応急工事等により、令和3年7月末、国道219号は大野大橋から人吉方面の一般車両通行可能。
- ・国道219号は、引き続き本復旧工事を推進。
- ・対岸道路は、本復旧のための迂回路整備(JR肥薩線使用)が概成。

◆橋梁(国の直轄代行)

- ・流失橋10橋のうち、全ての橋梁形式決定。
- 完成: 1橋(西瀬橋 R5.2.19完成)
- 工事推進: 9橋 ※流失全橋復旧工事に着手
(坂本橋、鎌瀬橋、大瀬橋、松本橋、沖鶴橋 R4.12.4着手)
(深水橋、神瀬橋、相良橋、天狗橋 R5.11.11着手)

<R5年度末の到達状況・今後の取組みの方向性>

◆集落アクセス

- ・被災した全箇所の早期復旧を目指して、他工事の完了後に着手可能となる山間部の市町村道を除き、R5年度中に全箇所着手し、早期完了を目指す。

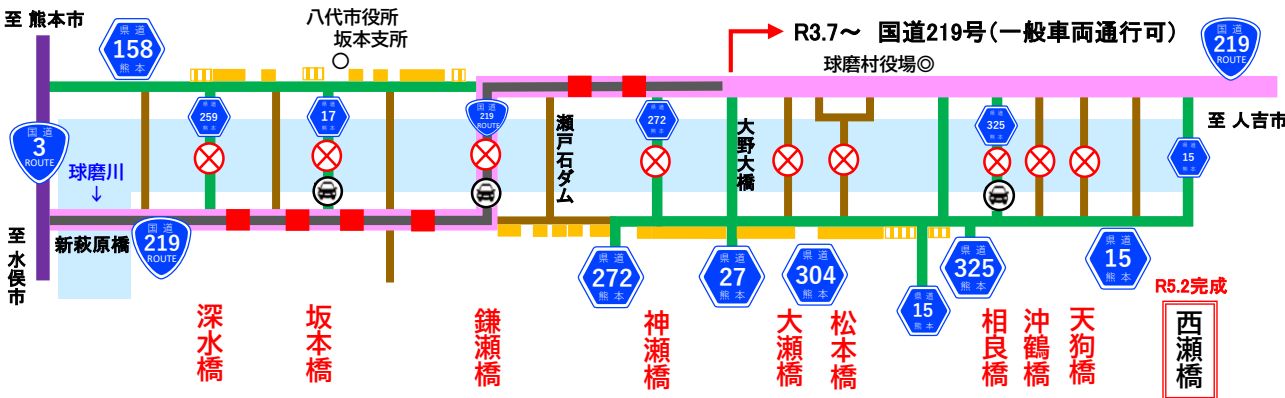
◆国道219号および対岸道路(国の直轄代行)

- ・『道路復旧方針』に基づき、避難計画やまちづくり計画等を踏まえ、国・県・市町村が連携して道路護岸の復旧や嵩上げなど本復旧工事を推進。
- ・対岸道路は、迂回路整備から本復旧工事へ移行。早期完了に向け、工事を推進。

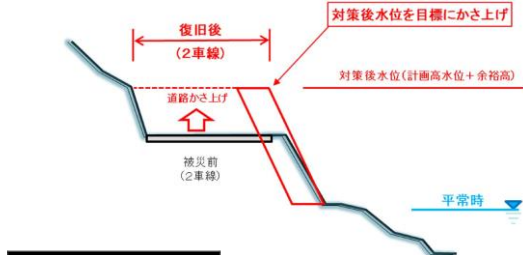
◆橋梁(国の直轄代行)

- ・流失橋10橋のうち、西瀬橋は完成。
- 残る9橋の早期完成に向けた本復旧工事を推進。

■ 国道219号等 復旧状況



■ 国道219号 復旧イメージ



凡例～交通状況～	
	国道219号(通行可)
	国道219号(通行止)
	国道
	県道
	市町村道
⊗	流失橋梁
⊗	仮橋設置(通行可)

凡例～復旧状況～	
	本復旧工事推進
	迂回路整備済(JR肥薩線使用)
	迂回路整備中(JR肥薩線使用)

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

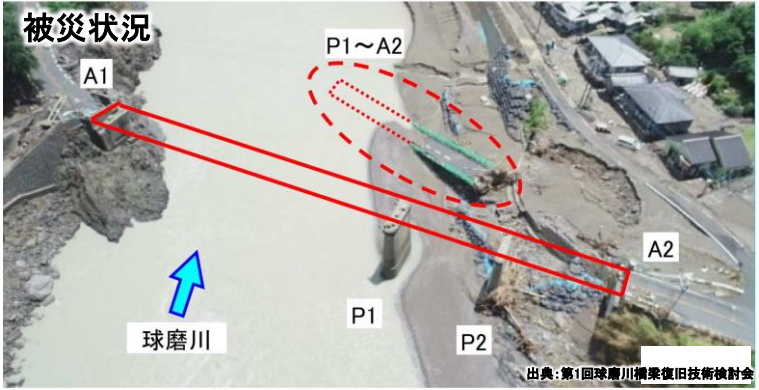


●国道219号(八代市・坂本町川嶽地区)道路復旧・かさ上げ状況



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

●国道219号 鎌瀬橋の復旧状況



発災直後の状況及び発災後の取組み



流失した球磨川第4橋梁



くま川鉄道再生協議会設立総会 (R2.12.25)

- ・人吉温泉(人吉市)～肥後西村(錦町)間で橋梁流失や車両浸水等の被害発生
- ・令和2年7月20日から、県の「高等学校等通学支援事業」により代替バスの運行を開始
- ・令和2年8月27日の臨時取締役会において、鉄道事業による復旧を決定
- ・県・地元市町村・鉄道事業者で構成する「くま川鉄道再生協議会」を設置し、復旧に向けた協議体制を整備

R5年度末の到達状況



部分運行再開後の通学利用者(肥後西村)



球磨川第4橋梁の工事状況 (R6.1.22)

- ◆令和3年11月28日
肥後西村～湯前間で部分運行開始
- ◆令和5年1月26日
球磨川第4橋梁建設工事に着手
- ◆令和6年3月
左岸側橋台・橋脚の設置完了

今後の取組みの方向性

- ・令和7年度中の全線運転再開に向けた復旧工事の実施
- ・復旧工事完了後の上下分離方式の導入に向け、地元市町村及び県で新法人を設立
- ・国、県、市町村による財政支援の実施



球磨川第4橋梁完成イメージ図

発災直後の状況及び発災後の取組み



- ・JR肥薩線の八代(熊本)～吉松(鹿児島)間で450か所が被災(うち県内448か所)
- ・JR九州が復旧費用約235億円と試算
- ・鉄道復旧に向けた協議体として、国・県・JR九州で構成する「JR肥薩線検討会議」と、県・地元12市町村で構成する「JR肥薩線再生協議会」を創設
- ・国に財政支援の拡充を要望

R5年度末の到達状況



第6回 JR肥薩線再生協議会



第6回 JR肥薩線検討会議

- ・第3回検討会議(R4.12.6)においてJR九州から示された「検討すべき6つの課題」に対応するため、県・地元12市町村で「JR肥薩線復興方針」を取りまとめ、第5回検討会議(R5.12.13)で報告。
- ・これに対しJR九州は「『観光による振興』だけでなく『日常利用の創出』を考える必要がある」と要望。
- ・このため、第6回再生協議会(R6.2.28)で、『観光利用』と『日常利用』の両方の視点を重視しながら利活用策の検討を深めていくことを確認。
- ・次回検討会議で地元の考えをJR九州に示す。

今後の取組みの方向性

- ・引き続き、鉄道での早期復旧を目指し、関係者による検討・協議を進める。

1. 方針策定の背景・目的

◆ 検討の経緯と本書の位置づけ

- ・JR肥薩線（八代～吉松間）は、令和2年7月豪雨で甚大な被害を受け、運休が続く
- ・熊本県としては、まずは特に著しい被害を受けた八代～人吉間の鉄道復旧の意義について、国・JR九州および地元12市町村と協議中
- ・JR肥薩線復興方針（案）は、八代～人吉間を鉄道で復旧させるとした場合の基本方針を示すもの

◆ 関係地域の現状と課題

- ・関係地域では、人口減少・少子高齢化・経済の停滞が続き、特に人吉・球磨地域は厳しい状況
- ・令和2年7月豪雨により、人口減少の加速や、観光施設の被災などが発生し、地域経済・社会の継続的な衰退が懸念される
- ・衰退から成長へ転換させるためには、関係地域の魅力的な観光資源を活かして、「観光の再成長を軸とした地域の再生」を目指す必要がある

◆ 肥薩線の現状と課題

- ・関係地域では、自家用車や高速バスによる移動が定着し、「日常の足」としての肥薩線利用が少ないものの、高校生の通学利用は一定数存在
- ・「観光の足」としては、人吉・球磨地域の入込客数に占める肥薩線利用者の割合は数%に過ぎないが、遠方発の観光客の誘客手段としての役割は大きく、年間約8億円の経済波及効果が存在
- ・肥薩線の利用者数は減少傾向が続いており、上記の役割を果たしつつも年間約6億円の赤字路線

◆ 肥薩線の復興に必要な視点

- ・地域経済・社会の停滞と、肥薩線の利用減少・赤字を踏まえると、これまで地域づくりと肥薩線の連携が不十分で、肥薩線のポテンシャルを活かされなかった反省がある
- ・肥薩線の復興にあたっては、関係地域がもつ観光地としてのポテンシャルと、肥薩線がもつ観光路線としてのポテンシャルの間で相乗効果を生むことが必要で、住民からも、観光の誘客手段や地域のシンボルとしての役割から、鉄道復旧を期待する声が多い

2. 復興方針（案）

◆ 地域の目指す姿

「清流球磨川」と「百年レール肥薩線」という2つの「線」を活かし、観光を軸とした日本一の地方創生モデルを実現する

◆ 重点プロジェクト

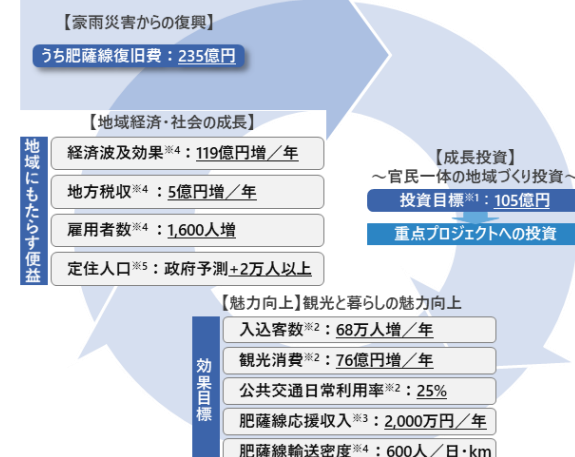


◆ 肥薩線の価値と機能

「100年の歴史を継承し、次の100年も幸せ運び続ける、かけがえのない存在」として、重点プロジェクトに貢献

- 【①観光資源機能】肥薩線の魅力的な列車と歴史自体が観光客を呼び込む
- 【②広域周遊機能】鉄道ネットワークだからこそ、多様な観光客が広域を周遊する
- 【③生活充実機能】運転免許を持たない人でも、予約不要で気軽に利用できる
- 【④シンボル機能】地域一丸となって復興と再成長に向かう心の支えとなる

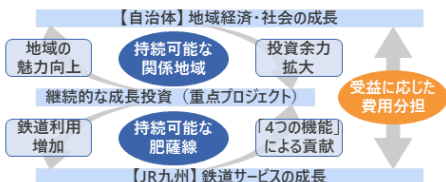
◆ 数値目標・指標



3. 復興方針の推進手法

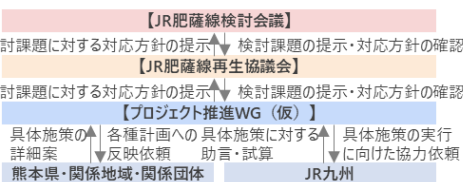
◆ 責任主体の基本的な考え方

- ・自治体とJR九州の間で、受益に応じた適切な費用分担のあり方について調整を進める



◆ 具体施策の推進主体

- ・具体施策は、プロジェクト推進WG（仮）で詳細化し、構成団体の各種計画への適切な反映を行う



◆ 復興に向けた検討課題とロードマップ

- ・2024年度末に、関係主体間で鉄道復旧に向けた最終合意を目指す
- ・現時点での目標として、2033年度頃の復旧を目指し、具体施策の準備・実施を進める

分類	検討課題	2033年度：復旧目標▼			
		(年度)			
		2023	2024	2025～32	2033～
フェーズ①	JR肥薩線再生協議会における復興方針(案)の作成				
	関係主体間における復興方針(案)の調整				
フェーズ②	鉄道復旧の内容と鉄道復旧後の運営手法等の検討				
	具体施策の詳細化・追加・削除				
	具体施策の費用試算の詳細化				
フェーズ③	具体施策の責任主体・費用分担の検討				
	具体施策の各種計画への反映				
フェーズ④	具体施策の実行準備				
	具体施策の継続的な実施・検証・改善				

※1：2025-2040年累計 ※2：2040年目標。人吉・球磨地域 ※3：2040年目標。ふるさと納税など ※4：2040年水準 ※5：2040年水準。各自治体の既存計画に基づく政策の効果も含めて達成を目指す

児童生徒の心のケア

発災直後の状況及び発災後の取組み

発災後、心のケアを必要とした児童生徒数(※)
284人
(八代 17人、芦北 21人、球磨246人)

※令和2年7月豪雨に係る児童生徒の心のケアに関する調査(R2.10)

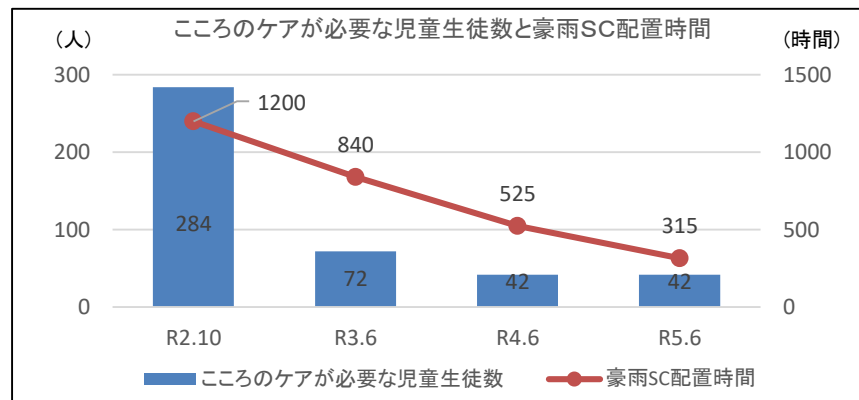


豪雨対応スクールカウンセラー(SC)の活用(R3.4~)

- ・3教育事務所にSC4人を配置し、重点支援対象校14校に対して派遣(R5年度は3人)

R5年度SC配置時間 315時間
(八代 70時間 芦北 35時間
球磨 210時間)

R5年度末の到達状況



- ・こころのケアが必要な児童生徒数は、これまでの阪神・淡路大震災や熊本地震などでも、被災から1~2年は減少し、3~4年程度はケアが必要な児童生徒数が横ばいとなる傾向がある。
- ・令和2年7月豪雨も同様の傾向を示し、昨年6月の調査では、1年前の調査結果と同数の42人となった。
- ・今後も一定数、ケアが必要な児童生徒が存在すると推測され、各学校でSCを中心に子ども達に寄り添った対応を継続する。

今後の取組みの方向性

- ・令和6年度もSCを継続して派遣し、心のケアが必要な児童生徒の支援を行う。
令和6年度SC配置時間 315時間(令和5年度と同水準の時間を確保)
(八代 70時間、芦北 35時間、球磨 210時間)



球磨川流域の魅力ある学校づくり

発災直後の状況及び発災後の取組み

持続可能な地域の実現に向けた、地方創生の核となる魅力ある学校づくりのため、以下の取組みに着手(R3~)

1. 県立高校の学びの充実と特色化・魅力化

- ① 県内の複数高校が連携した遠隔授業の開始(球磨中央高校)
- ② 各高校の特色ある取組みの推進
 ≪熊本スーパーハイスクール(KSH)構想≫
- ③ 先端技術を活用した探究活動等の充実(人吉高校)
- ④ 地域資源を活用した学びの充実(球磨工業高校)

2. ICT教育の推進

- ・企業と連携したICT教育の充実

3. 県立学校における防災教育・防災管理の充実

- ・人吉球磨地域の県立学校を順次拠点校に指定(2年間)し、教職員や生徒の防災意識・対応能力向上の取組を推進

②主なKSH構想指定

高校	県指定
人吉	イノベーション
球磨中央	クリエイト
南陵	プロフェッショナル
芦北	プロフェッショナル

今後の取組みの方向性

【県立高校の学びの充実】

- ・遠隔授業の継続
- ・探究活動等充実のための外部機関との連携強化、VR等の先端的な技術活用促進
- ・産業界と連携した専門教育の充実

【ICT教育の推進】

- ・ICT活用に係る研修や各学校の特色ある取組みに対する支援の推進

【防災教育・防災管理の充実】

- ・避難訓練等を通じた地域や関係機関との関係性強化

R5年度末の到達状況

1. 県立高校の学びの充実と特色化・魅力化

- ① 遠隔授業の充実(球磨中央高校)
 - ・COREハイスクール・ネットワーク構想により、第一高、小国高、牛深高等と遠隔授業を実施
- ② 特産品を使用した商品開発(球磨中央高校)
 - ・山崎製パン(株)と共同で企画した、特産品の栗を使った「ランチパック」等の商品化
- ③ 創造的教育方法実践プログラム事業(人吉高校)
 - ・総合的な探究の時間において、東京大学や人吉市等と連携し、VR等を活用した探究活動等を実施
- ④ 地域資源とのコラボ推進事業(球磨工業高校)
 - ・日本古来の建築技術等の専門教育の充実
 - ・最先端の測量技術を用いた防災学習の実施

2. 企業と連携したICT教育の推進

- ・グーグルによる教職員向け端末活用研修や生徒向けキャリア研修等の実施
- ・Youtubeを活用した観光PRや学校紹介等のサイト作成支援

3. 県立学校における防災教育・防災管理の充実

- ・校内防災体制整備、実践的避難訓練等の実施



②県庁でのランチパック販売実習



④地域資源とのコラボ推進事業



2 人吉高校YouTubeチャンネル



3 避難所運営をテーマとしたロールプレイ形式授業

**地域の魅力の
向上と誇りの回復**

＜発災直後の状況及び発災後の取組み＞

○観光施設等の再開支援



○『人吉球磨豪雨被災地観光復興戦略』に基づく取組み、旅行助成事業やキャンペーン等による誘客促進



・宿泊旅行助成事業や交通機関利用を組み込んだ旅行商品に対する助成事業を実施

令和2年7月豪雨被災地域応援キャンペーン

くまもと再発見の旅

豪雨被災地送客促進事業
(観光バス等が組み込まれた旅行等への助成)



・球磨川での新たなアクティビティ導入実証

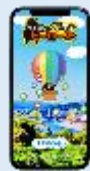


・夜のイベント実施
(「夏目友人帳」影絵)

・緑川ゆき・白泉社/「夏目友人帳」製作委員会



・クイズ旅アプリによる周遊促進



＜今後の取組みの方向性＞

○観光地としての復活及び新たな顧客獲得のため、観光地域づくりへの支援や誘客促進のための施策等を実施

＜令和5年度末の到達状況＞

○再開状況

◆旅館等の復旧 **32/35施設** ◆国・県指定等文化財の復旧率 **81.4%**
(R6.4に2施設、R6.8に1施設再開予定⇒100%) (R6.3末見込)
◆球泉洞 **再開** ◆球磨川くだり・ラフティング **再開(※)**
(※) 球磨川くだり及びラフティング急流コースは現在一時休止中

○観光復興戦略に基づく取組み、キャンペーン等による誘客促進



・復興キャンペーン

・アニメを活用した旅行プランやまち灯りなど滞在延長につながる新たなコンテンツの創出

・球磨川での新たなアクティビティプログラムの開発



・防災減災やSDGsをテーマとした教育旅行プログラムの開発
・ワーケーションのモデルコース作成など新たな観光需要の創出

○その他の取組み



・『くまモンタウン人吉』
(くまモンランド化構想)



・青井の杜国宝記念館完成 (R5.9)

＜発災直後の状況及び発災後の取組み＞

○蔵元の再開支援



○球磨焼酎の魅力発信



- ・熊大によるカクテルレシピ開発等の情報発信
- ・県立大による球磨焼酎アプリの開発



- ・熊本屋台村と連携したイベント



- ・酒蔵ツーリズムの推進

○球磨焼酎の販路拡大



- ・球磨焼酎応援フェア（福岡）



- ・（大阪）大阪梅田地区の商業施設と連携した球磨焼酎フェア



＜令和5年度末の到達状況＞

○球磨焼酎の魅力発信



- ・テレビ番組の誘致
- ・観光列車内での飲み比べ体験
- ・酒蔵ツーリズムの推進

○球磨焼酎の販路拡大



- ・大都市圏（東京、大阪、福岡）での球磨焼酎フェア



- ・飲食店と連携した県産酒定額サービスの普及推進

（国内外コンペティションにおける受賞（一部））



＜今後の取組みの方向性＞

- 球磨焼酎のブランド力向上及び消費拡大のため、歴史的・文化的観点からの魅力発信や、国内外市場への販路拡大支援を実施

球磨川流域大学構想(熊本県立大学の取組①)

被災地域復興・再生支援事業(R2～)

発災直後の状況及び発災後の取組み

◇無料オンライン講座

「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」の開講(R3～)



R3

R4

R5

<実績>

R3 4講座 207人受講
 R4 17講座 557人受講
 R5 13講座 498人受講
 復興ツアー 12人参加

累計34講座 1,262人受講

◇研究・活動支援(R2～R3)

様々な研究室が被災地域の復興・再生に向けて活動を実施

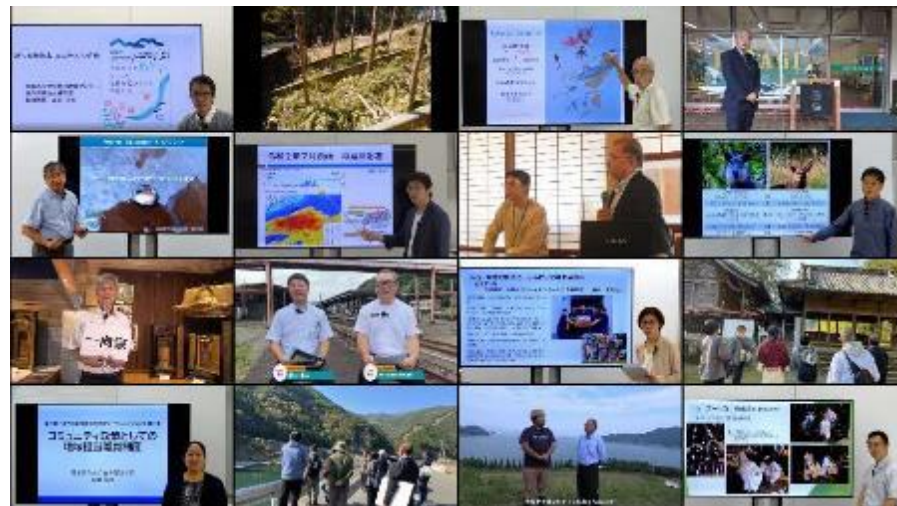


R4.11.9～10 グランメッセ熊本
 先進建設・防災・減災技術フェア
 in熊本での成果展示

R5年度末の到達状況

◇無料オンライン講座

復興を切り口に多彩な講師陣による球磨川流域圏の文化・歴史・環境をテーマにした講義をオンデマンド配信。高校生をはじめ幅広い世代に被災地域の魅力と復興の今を伝え、R5年度末までの受講者数の累計は1,200人を超える。



R5年度 配信:9月1日～令和6年2月29日

講師と巡る被災地復興ツアーIn八代市坂本町:11月26日

今後の取組みの方向性

- ・新たなテーマ&より地域の個性にスポットを当てた講座を展開
- ・R5に好評だった課外授業「講師と巡る被災地復興ツアー」を継続

令和5年度球磨川流域圏バーチャルキャンパス受講者数発表会
 球磨川流域圏バーチャルキャンパス課外授業
 ～講師と巡る被災地復興ツアー～
 in 八代市坂本町

日時 令和5年11月26日(日) 9:00～17:00
 参加費 無料
 昼食代 3,000円/1人(現地でお支払いいただきます。
 (球磨川温泉 鶴之湯旅館の天然鮎料理))
 申込締切 令和5年11月5日(日)
 定員 先着14人

球磨川流域大学構想(熊本県立大学の取組②)

「緑の流域治水」に関する最先端の研究活動

発災直後の状況及び発災後の取組み



地域共創拠点キックオフミーティング



県立南稜高校に整備した雨庭

- ・JST共創の場形成支援プログラム採択(R3.10)
→キックオフミーティング開催(R3.11)
- ・人吉市内に現地拠点を開設(R4.4)
- ・球磨村・神瀬地区でIoTプロジェクトが始動(R4.5~)
- ・南稜高校内に、同校の生徒と共に雨庭を整備(R4.10)
- ・スタディツアーを試行(R4.10)
- ・MS&AD社と連携し、相良村で湿地保全活動を開始(R4.11~)
- ・拠点研究の全体会議を開催(R4.12) など

R5年度末の到達状況



県立大学内に整備した
国内最大級の実験水路



中学生を対象とした勉強会(R5.8)

- ・河川改修の有効性を検証する実験水路を整備、実証研究を開始(R5.12~)。
- ・スタディツアーの一般向け販売を開始、継続的なツアー客の受け入れ。
- ・行政職員や市民向け啓発活動の展開(勉強会/連続展示企画)
- ・社会実装に向けた取組を促進(モデル流域の設定等)
- ・球磨川支川への水位計設置を推進、データ収集を強化
- ・雨庭整備の推進(雨庭パートナーシップの立ち上げ) など

今後の取組みの方向性

- ・緑の流域治水技術の思想と手法の確立
(ガイドライン策定等)
- ・大学内で「緑の流域治水研究」の内包化を検討
(研究機能の継続)
- ・行政職員のリテラシー向上、中高生への学び場の提供 等



球磨川流域大学構想

<R5年度 主な取組み>

◆「緑の流域治水」の情報発信



相良北小学校での出前授業(R6.1.17)



やつしろ防災フェスタ2023(R5.11.3)



人吉市防災会議(R5.5.22)



行政職員向けの勉強会(R6.1.9)

- ・「緑の流域治水」の取組みについて、広く情報を発信するため、動画・パンフレット・立体地図を活用し、小中高生向けの出前授業や、各種会議・イベント等での説明を実施。
- ・これまで、球磨川流域の小中高校での出前授業(14回)をはじめ、研修会や説明会など計65回、延べ約3,900人を対象に説明を実施。

◆東大先端研と人吉高校五木分校が連携した五木村振興



VR視聴体験(R5.12.22)



“防災まち歩き”授業(R6.1.17)

- ・人吉高校五木分校では、東京大学先端科学技術研究センターと連携し、VR等の先端の知見を活用した授業を実施。
- ・令和6年1月には、「五木村の地域防災について歩きながら考える“防災まち歩き”授業」を開催。
- ・この授業を通して、五木村にまつわる「歴史・文化」「集落」「産業」「気候」「防災」の5分野のクイズやチャレンジ企画をまとめ、令和6年4月28日(日)に開催される村のお祭りで「五木クエスト(仮称)」と題し、来訪者に体験型イベントとして楽しんでもらう予定。

復旧・復興プランの
実現に向けて

令和2年7月豪雨に係る職員確保状況

- 被災市町村の復旧・復興事業の進捗に伴う派遣要望の減少により、派遣職員数は年々減少傾向。
- 令和6年度分は、被災6市町村から計26人の中長期職員派遣要望。(技術19人、事務7人)。
- 本県から職員を直接派遣するとともに、県内外自治体への訪問や総務省の「復旧・復興支援技術職員派遣制度」※を活用した派遣要請の結果、計20人を確保。
- **未充足分(計6人)**は、被災自治体において**職員配置調整や任期付職員等により対応**。

中長期派遣職員確保状況 (令和6年1月末現在)

(単位：人)

市町村	確保数				
	R2	R3	R4	R5	R6 ()は要望数
八代市	5	3	4	1	0(1)
人吉市	24	23	16	11	11(16)
南小国町	1	-	-	-	-
小国町	1	2	2	-	-
芦北町	9	9	8	7	1(1)
津奈木町	1	0	-	-	-
相良村	1	0	-	-	-
五木村	0	0	0	1	1(1)
山江村	0	1	0	2	1(1)
球磨村	21	24	15	7	6(6)
計	63	62	45	29	20(26)

※「復旧・復興支援技術職員派遣制度」

- ・都道府県等が技術職員を確保し、平時には職員不足の市町村を支援し、大規模災害など有事の際には被災自治体へ中長期派遣を行う仕組み。
- ・都道府県等へは当該制度に基づき確保した技術職員数に応じ、地方交付税措置あり。

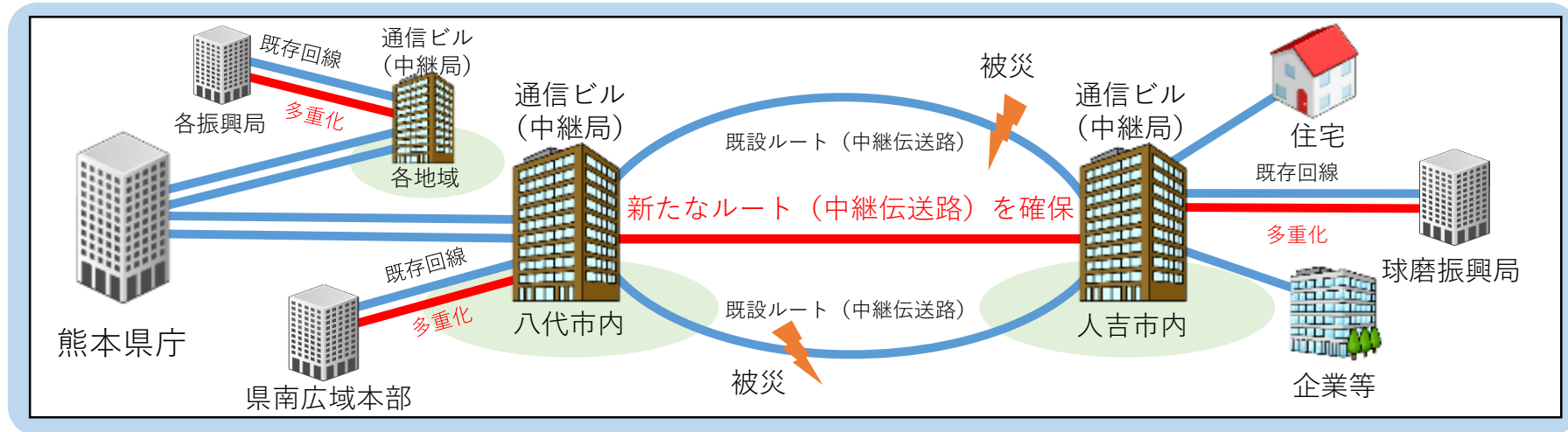
・任期付職員等は含まない。

・「-」は要望なし、「0」は要望があったものの職員が確保されなかったことを表す。

デジタルを活用した創造的復興

1 通信回線の多重化による災害に強い情報通信網の構築

・豪雨災害により民間の通信回線が被災。既存ルートの復旧とともに、新たなルートを確認。熊本県総合行政ネットワークにおいても多重化を実施。



2 高速で安定した通信ネットワークの整備

- ・ 遠隔診療やスマート防災等の最先端サービスの提供に向けて、市町村の公設公営からの民営化を含め、インターネットの高速化・安定化に向けた取組みを推進。
- ・ 民営化によるインターネットサービスを八代市坂本町(R5)、湯前町(R5)、あさぎり町(R6)で開始。
- ・ 五木村、相良村でも、民営化を含め、今後の通信ネットワークの在り方の検討を進めている。



デジタルを活用した創造的復興

3 デジタルを活用した人吉・球磨地域の産業振興

・人吉球磨地域において、IT企業、地元組合等と連携し、球磨焼酎のブランド力向上や魅力ある観光地づくりに向けて、デジタルを活用した実証事業を実施(R5年度)。

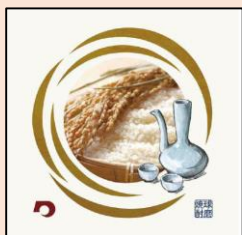
NFT・メタバーズを活用した球磨焼酎のブランド力向上

(1)目的

- ・デジタル活用による球磨焼酎の新たなファン(若者等)の獲得及びブランド力向上

(2)概要

- ・球磨焼酎をPRした方に、活動内容に応じ、改ざんが困難な電子証明書(NFT)を配布。球磨焼酎と交換できる仕組みを構築。
- ・メタバーズ空間による球磨焼酎の魅力発信イベントの実施。



NFT例



メタバーズ空間イメージ

人吉球磨観光データ取得による魅力ある観光地づくり

(1)目的

- ・観光データの取得、関係者間の共有による周遊性の向上等、魅力ある観光地づくり

(2)概要

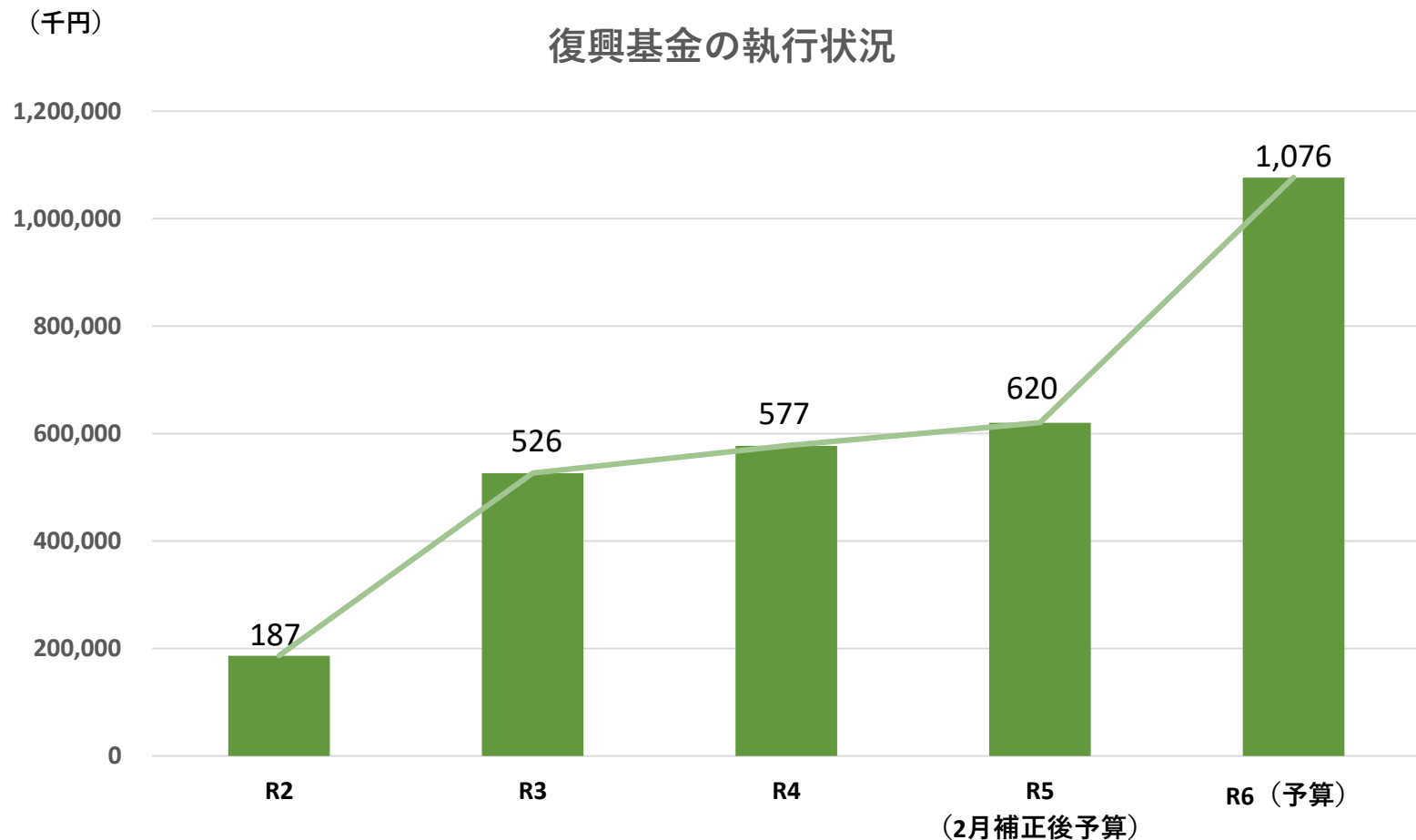
- ・デジタルスタンプラリー「人吉・球磨 風水・祈りの浄化町の旅」を実施。
- ・観光客に「三日月札(ICタグ)」を持ち歩いていただき、周遊データを取得。
- ・地元団体等で周遊データを分析し、今後のリピート率向上に向けた取組等を検討。



三日月札の使用例

球磨川流域復興基金を活用した市町村支援①

- 「球磨川流域復興基金」を活用し、被災市町村の復旧・復興の進捗に応じた支援を実施。
- 令和6年度は、総額10億円の予算を確保し、新たに ①グリーンニューディール創造支援事業、②豪雨災害の記憶・教訓伝承推進事業2つの支援を追加。(全38事業)



球磨川流域復興基金を活用した市町村支援②

(令和6年度新規事業)

【グリーンニューディール創造支援事業】

○事業内容：

令和2年7月豪雨からの創造的復興に向け、人口減少が進む被災地の地域課題解決に向けた新たなプロジェクト・事業の創出を目的とする、地域横断的なプラットフォーム（協議会等）の構築・運営に要する経費を支援

○負担割合：県10/10以内（上限：1市町村あたり2,000千円）

○支援対象：復旧復興プラン対象市町村
（球磨川流域12市町村及び津奈木町）

【事業スキーム】

※県補助金・国交付金等、既存制度で支援

新規プロジェクト・事業

プラットフォーム・協議会等

負担金等

各市町村

支援

県

【豪雨災害の記憶・教訓伝承推進事業】

○事業内容：令和2年7月豪雨の経験や教訓の発信等に必要な経費を助成

○負担割合：県1/2（上限：1市町村1,000千円）、市町村1/2

○支援対象：復旧復興プラン対象市町村（球磨川流域12市町村及び津奈木町）

将来に向けた持続可能な地域の実現に向けて

○「復旧・復興プラン」には、「直ちに実施する喫緊の取組み」として59、「持続可能な地域の実現に向けた将来ビジョン」として65、計**124の取組み**を掲げている。

○これらの取組みについて、これまで、国、市町村、住民の皆様などの御協力のもと、**全て着手、実施。**

○「将来ビジョン」に掲げる取組みの中でも、既にいくつかの取組みが具体化。

○引き続き、全庁一丸となつて、被災地の創造的復興の完成に向けた取組みを進めていく。

「令和2年7月豪雨からの復旧・復興プラン」抜粋

4 持続可能な地域の実現に向けた将来ビジョン(目指すべき取組みの方向性)

I すまい・コミュニティの創造
～安全・安心な住まいの確保と子ども高齢者も暮らしやすいまちづくり～

- 〇誰もが暮らしやすい魅力あふれるまちづくりと新たなコミュニティの形成
 - ・災害・被災に巻き込まれにくい強靭なまちづくりと新たなコミュニティの形成
 - ・高齢者・障害者・子育て世代など多様な世代の共生
 - ・生活環境改善の実現に向けた健康づくりや子育て支援の推進
 - ・避難所・避難生活支援施設等、被災者支援の拠点を確保し防災・防災対策の推進
 - ・被災地における生活支援施設(コミュニティセンター等)の活用・整備
 - ・災害発生時の避難所運営支援(避難所45等)と一体的なまちづくりの推進
- 〇最先端技術(AI, ICT等)を駆使した新たなまちづくりによる、「スマート・ヒルレッジ」の実現
 - ・ICTによるまちづくりや高齢者の暮らし支援
 - ・業務効率化やオンライン化など、業務の効率化と防災・生活支援の共有
 - ・地域に根ざった専門的知識の活用が受けられるオンライン診療
 - ・避難所運営や被災者の生活支援などさまざまな分野での活用
 - ・避難所づくりや子育て(AI, ICT)設備の導入

II なりわい(産業・産業の再生と創出)
～一日も早い事業再生と地域の復興を促した新たな「仕事」の創出～

- 〇ダイナミックなインセンティブによる
 - ・企業実証と産業・雇用の創出
 - ・環境施設や空き家を有効活用し、サテライトオフィスの設置やシェアオフィス・ coworking spaceの活用
 - ・ワークシェアリング・フリーランス等、新たな仕事の創出や居住定住の促進
 - ・生活環境改善による生活環境の向上や生活環境の向上
 - ・働き方改革による働き方の多様化による生活環境の向上
 - ・働き方改革による働き方の多様化による生活環境の向上
- 〇再生可能エネルギーの導入推進によるゼロカーボン先進地の創出
 - ・再生可能エネルギーの導入推進によるゼロカーボン先進地の創出
 - ・再生可能エネルギーの導入推進によるゼロカーボン先進地の創出
 - ・再生可能エネルギーの導入推進によるゼロカーボン先進地の創出
- 〇緑の雇用の創出に向けた森林緑地の活用
 - ・森林整備の推進による木材の確保や森林の導入による林業の生産サイクルの短縮、「スマート・ヒルレッジ」の推進
 - ・森林整備の推進による木材の確保や森林の導入による林業の生産サイクルの短縮、「スマート・ヒルレッジ」の推進
 - ・森林整備の推進による木材の確保や森林の導入による林業の生産サイクルの短縮、「スマート・ヒルレッジ」の推進
- 〇農地の大区画化による生産性の向上と農業者の振興
 - ・農地の大区画化による生産性の向上と農業者の振興
 - ・農地の大区画化による生産性の向上と農業者の振興
 - ・農地の大区画化による生産性の向上と農業者の振興
- 〇球磨川と千歳再生のシンボル「アユ」・「アザリ」による地域活力の再生
 - ・球磨川と千歳再生のシンボル「アユ」・「アザリ」による地域活力の再生
 - ・球磨川と千歳再生のシンボル「アユ」・「アザリ」による地域活力の再生
 - ・球磨川と千歳再生のシンボル「アユ」・「アザリ」による地域活力の再生

III 災害に強い社会インフラ整備と安心して学べる拠点づくり
～いかなる災害に遭っても、生命・財産・教育環境を守り続けるインフラの強化～

- 〇日本一災害に強い、命の道・通学の道としての「国道219号」の強化
 - ・日本一災害に強い、命の道・通学の道としての「国道219号」の強化
 - ・日本一災害に強い、命の道・通学の道としての「国道219号」の強化
 - ・日本一災害に強い、命の道・通学の道としての「国道219号」の強化
- 〇全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり
 - ・全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり
 - ・全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり
 - ・全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり

IV 地域の魅力の向上と誇りの回復
～地域の魅力の向上と誇りの回復～

- 〇観光資源の継承と新たな観光資源の創出
 - ・観光資源の継承と新たな観光資源の創出
 - ・観光資源の継承と新たな観光資源の創出
 - ・観光資源の継承と新たな観光資源の創出
- 〇復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
 - ・復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
 - ・復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
 - ・復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
- 〇新商品づくり支援後の新たなインバウンド戦略の実行
 - ・新商品づくり支援後の新たなインバウンド戦略の実行
 - ・新商品づくり支援後の新たなインバウンド戦略の実行
 - ・新商品づくり支援後の新たなインバウンド戦略の実行

中長期的な視点で取組みを推進

「持続可能な地域の実現に向けた将来ビジョン」(中長期的な視点での取組み)の中で、具体化している取組みの例

○人吉市街地をはじめとした道路改良(国道445号等)と一体的な街並み空間の再構築
青井地区の土地区画整理事業がR6.2着工。



○球磨焼酎の“トップ・オブ・ザ・ワールド戦略”
世界レベルのコンペティションにおいて、最高位の受賞を実現。



○東大等国内外の大学や高校とつながる授業の展開などによる魅力ある学校づくり
東大先端研と連携し、人吉高校五木分校でVR等の先端の知見を活用した授業を実施。



○くまモンと人吉球磨(くま)のコラボによる新たな魅力づくり
地域資源×くまモンの新たなコンテンツを造成。



○復興のシンボルとしての清流川辺川・球磨川の継承
清流川辺川を活かし、復興のシンボルとなる拠点づくりを実施。



五木村の振興について

<新たな振興計画策定後の主な動き>



※新たな計画に基づく様々な取組みを推進

- 2月6日、五木村・五木村村議会から「“ひかり輝く”五木村の実現に向けた地域振興に関する要望書」を受領。

※同日、九州地方整備局長にも要望書を提出



- 3月5日、知事が要望書に対する県の回答書を五木村・五木村村議会へ手交。

※同日、九州地方整備局長からも回答

五木村の振興について

主な取組み

生涯にわたり住み続けられる 医療・福祉・教育の推進

東京大学と連携した
人吉高校五木分校の魅力向上の取組み



VR体験を活用した地域防災の
連携授業(五木分校)

伝統文化継承の取組み



焼畑

DXに向けた取組み



DXセミナー

タブレット導入



肥後銀行との包括連携協定



豊かな恵みを生かした 持続可能な産業と雇用の創出

豊かな森林資源・農産物を生かした取組み

林業セミナー(無印良品等)



前畑農園との連携協定



夏秋イチゴ

移住定住促進に向けた取組み



くねぶ加工施設の設置



森林モニターツアー



移住定住祭

誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が集まる “ひかり輝く”新たな五木村

川辺川上流域の安全安心の確保に
向けた河川・治山・砂防事業による総合的な対策



河川改修



砂防堰堤



治山ダム



宅地かさ上げ

道路ネットワークの強靱化・リダンダンシー
の確保の取組み

道路改良(測量設計)



県道宮原五木線(構工区)

道路改良(下部工)



国道445号 新神屋敷橋(仮称)

頭地・高野地区を中心とした
まちづくりの取組み



五木村東地区ランドデザイン協議会



道の駅のトイレ改修

宮園周辺地域のまちづくりの取組み



宮園周辺地域振興協議会

新たな時代を見据えた
安全・安心を確保する生活基盤の整備

豊かな自然やこれまで整備した施設等
を生かした新たな振興

相良村の振興について

- 令和5年3月「第2回相良村振興推進会議」を開催し、**村の振興策に対する県の取組みを知事から吉松村長に手交。**



知事から吉松村長へ県の取組みを手交
(第2回相良村振興推進会議 R5.3.27)



相良村村民説明会
(R5.5.21)

- 令和5年5月21日には、村民説明会において、**知事から村の振興に対する考えと県の取組みを説明**し、様々な御意見等を聴取。

【今年度に着手した主な取組み】

国道445号の道路改良・川辺川の河川整備



住民説明会 (R5.12.19)



国道445号道路改良
予定箇所

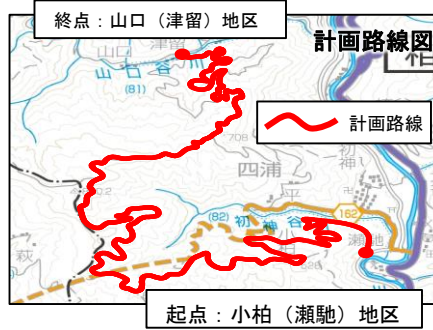


河川掘削状況 (R5.10.17)



基盤整備検討範囲

基幹林道(四浦西)の整備



終点: 山口(津留)地区
起点: 小柏(瀬馳)地区



現地調査



事業推進委員会の設立

農地の基盤整備



R5地域づくり夢チャレンジ推進
補助金活用

川辺川魅力創造事業(イベント等実証事業)



川のお茶会



お試しキャンプ



やな場づくり体験

広域本部・地域振興局からの報告

復旧・復興に向けた取組み状況(県南広域本部①)

【道路・河川・山地等の整備】

【公共土木施設の災害復旧事業】(八代管内)

○公共土木施設の災害復旧事業は、令和6年3月末見込で138箇所全てに着手し135箇所完了。

○残る3箇所についても令和6年度までに完了予定。

令和6年3月末見込

項目	箇所	契約済	発注予定		発注予定 (R6年度)
			うち完了	うち施工中	
河川	47	47 (100%)	46 (97.9%)	1 (2.1%)	-
砂防設備	36	36 (100%)	34 (94.4%)	2 (5.6%)	-
道路	46	46 (100%)	46 (100%)	-	-
港湾	9	9 (100%)	9 (100%)	-	-
合計	138	138 (100%)	135 (97.8%)	3 (2.2%)	-



河川災害復旧事業(百済木川)

【山地及び保安林の災害復旧事業】(八代管内)

○山地及び保安林(危険木除去)の災害復旧事業は、令和6年3月末時点で54箇所に着手し44箇所完了。

○治山工事は残り35箇所(うち契約済10箇所)を令和7年度までに計画的に発注予定。

令和6年3月末見込

項目	箇所	契約済	発注予定		発注予定 (~R7年度)
			うち完了	うち施工中	
治山工事	73	48 (65.8%)	38 (52.1%)	10 (13.7%)	25 (34.2%)
保安林改良	6	6 (100.0%)	6 (100.0%)	-	-
合計	79	54 (68.4%)	44 (55.7%)	10 (12.7%)	25 (31.6%)



治山工事による荒廃溪流復旧状況(坂本町百済来下)

復旧・復興に向けた取組み状況(県南広域本部②)

【コミュニティ・なりわいの創造】

○「さかもとふれあいフェスタin八代市役所」を開催

令和2年7月豪雨災害により坂本町を離れている方や坂本町にゆかりのある方々が“ふるさと坂本”との絆を実感し、復興への想いを新たにしていだけるようなイベントを開催し、約1,800名が来場した。

日時 令和6年2月18日(日)

場所 八代市役所1F

主催 県南広域本部 (協力:八代市坂本支所)

内容 ①坂本町の6事業者等による物産展

<出展事業者> 食処さかもと鮎やな/さかもと館/鶴喰なの花村/山之屋/
坂本町地域おこし協力隊/坂本町生活研究グループ鮎帰会

②地元八竜小学校児童による合唱及び地元団体によるひょっこり踊りの披露

③坂本町の昔懐かしの写真の展示 等



(参考)地元の動き



▲坂本町の事業者等による物産展の様子
→朝から長い列ができ、正午ごろには、完売する事業者もあった。



▲被災前の肥薩線の写真を展示
→来場者の多くの方が懐かしんでいた。



▲今年度も「坂本ふるさとまつり」が開催され、大きな盛り上がりを見せた。
(令和5年11月12日(日))

復旧・復興に向けた取り組み状況(県南広域本部③)

【コミュニティ・なりわいの創造】

○夢チャレ補助金(豪雨枠)を活用した継続した支援

令和3年度から5年度までに坂本町の復興に係る計13事業への支援を実施

<令和5年度事業>

- ・NPO法人くまもとあそびLABO (モニターツアーの実施)
- ・motto sakamoto(熊本市内での情報発信イベント等の実施) [①]
- ・坂本町もりあげ隊 (坂本町でのマルシェの実施)
- ・肥薩線again (肥薩線に係るシンポジウム等の実施) [②]
- ・農事組合法人鶴喰なの花村 (鶴喰米を使った加工商品の開発)

13事業	R3年度	R4年度	R5年度
	5事業	3事業	5事業



▲motto sakamotoのイベント



▲肥薩線againのシンポジウム

○「合同企業説明会」及び「就職マッチング会」を開催

県南3地域の企業への雇用促進を目的とした就職イベントを開催

日時 令和6年2月10日(土)

場所 桜十字ホールやつしろ(オンライン併用)

主催 県南広域本部

内容 第1部 合同企業説明会(対象:高校生及び大学生等)

第2部 就職マッチング会(対象:求職者等)

参加者 企業 42社(県南3地域)

求職者等 182名(第1部:90名 第2部:92名)



▲合同企業説明会の様子



▲就職マッチング会の様子



復旧・復興に向けた取り組み状況(芦北地域振興局①)

1 道路・河川・農地等の整備

(1) 災害復旧関係

R5年度末見込み

項目	箇所	契約済	うち完了	備考
道路、河川、砂防	349	349 (100%)	335 (96%)	R6年度中に全箇所完了予定
農地、農業施設	19	19 (100%)	18 (95%)	R6年度中に全箇所完了予定(残1件:芦北町鶴木山地区)
治山(国直轄)	36	36 (100%)	36 (100%)	「芦北地区特定民有林直轄治山対策室」閉鎖(R5年9月)
合計	404	404 (100%)	389 (96%)	



河川災害復旧工事(芦北町大川内)



国直轄治山工事(芦北町女島)

(2) 改良復旧関係(創造的復興の推進)

○再度災害防止を図るため、堤防整備や河川拡幅等の改良復旧を実施中

- ・吉尾川(球磨川支川) : R6年度上期完了予定
- ・佐敷川水系 : R5までに町中心(下流)部の堤防整備が完了。橋梁・堰等の付替えを実施中

○収益性向上を図るため、農地の大区画化等を推進

- ・芦北東部地区(吉尾地区他) : R6年度着手予定
- ・事業計画地内で(株)湖池屋向け加工用ばれいしょの実証栽培を実施中

R4年度 : 栽培適応性の確認(管内5ヶ所)

R5年度 : 豪雨被災地域で栽培規模を拡大(宮浦地区55a)



佐敷川改良復旧工事



実証試験ほ場(芦北町宮浦)

復旧・復興に向けた取り組み状況(芦北地域振興局②)

2 住まい再建と地域の交流促進

仮設住宅入居状況

応急仮設住宅等入居者数 (R6. 2月末現在)
芦北町 : (ピーク時181戸) → 5戸
津奈木町 : (ピーク時15戸) → 0戸

災害公営住宅入居状況

芦北町佐敷地区(的場尻団地)9戸、湯浦地区(園川団地)10戸が入居済



佐敷地区災害公営住宅



湯浦地区災害公営住宅

長期避難世帯認定(解除)状況 (R6. 2月末現在)

芦北町 : 9地区38世帯 → 残り1地区8世帯
(R6年度末工事完了予定)
津奈木町 : 3地区 9世帯 → 全て解除済

交流拠点の整備

- ・一般社団法人「おかえり集学校」が廃校(旧海浦小)を活用したIT交流施設を設置、地域の交流拠点を目指す(R6. 4月開校予定)
- ・コワーキングスペースの設置、スマホやPCの無料相談、イベント等を予定



進出協定締結式 R5. 9. 25



旧海浦小学校

交流機会の創出等(夢チャレ補助金等による支援)

<芦北町>

- ・豪雨災害復興祈念イベントの開催
- ・さかなクン(みなまた・あしきたギョギョギョ大使)と連携した芦北高校「アマモ場再生の取組」の動画配信

<津奈木町>

- ・スローフードの新商品開発
- ・フットパスツアーの実施

復旧・復興に向けた取り組み状況(芦北地域振興局③)

3 生業・産業の再生と創出

サテライトオフィスへの企業立地等

- ・芦北町のサテライトオフィスにIT系企業等が立地
(R5年度の4件を含め、計13社と協定締結済み)
- ・水俣・芦北地域雇用創造協議会で「IT人材育成セミナー」を開催



IT企業立地協定



IT人材育成セミナー

地域産業の再生支援

- ・地域産品による新商品開発、都市圏・海外向け販路拡大
- ・マガキの養殖や販路拡大、アサリ資源の再生
- ・地元林産材の高付加価値化



台湾高雄市での物産展示販売会



アサリ資源の再生

地域産業の担い手確保

- ・高校生の就職支援(地元企業見学会、就職模擬面接会等)
- ・県南3局連携による合同企業説明会・就職マッチング会(R6.2月)



高校生企業見学会



県南3局合同企業説明会

地域の賑わい創出

○くまモンファーム事業

- ・収穫や食の体験とくまモンを掛け合わせた旅行商品を
開発・販売

○うたせ船の振興

- ・少人数で体験できる旅行商品(観光うたせ船乗り合い便)
を開発・販売し、YouTube等で情報発信



くまモンファーム事業



観光うたせ船

復旧・復興に向けた取組み状況(球磨地域振興局①)

地域づくり夢チャレンジ事業等による支援

○「復興人吉 スカイランタン・温泉まつり」の開催

R3年度から3年間の取組みを支援。今年度から温泉まつりと合同で開催し、更なる観光誘客を図る。



○五木村特産品魅力発信事業の取組

通販サイトの構築等、特産品の魅力発信のための取組みをR3年度から支援し、販売力を強化。



五木村農林水産物出荷協議会通販サイト

○人吉・球磨×アニメ「夏目友人帳」15周年記念事業の取組

アニメモデル地としての認知度・満足度の向上を図るためのイベント開催等の取組を支援。



夏目友人帳15周年オリジナルうちわ

民間と連携した取組み

○民間主催の復興関係イベントを国等と共に支援

清流球磨川の観光復興と防災を語るフォーラム

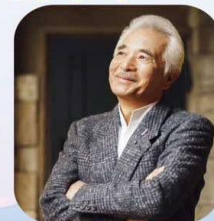
人数限定
2024年 2月18日(日) 12:00 開場
人吉市カルチャーパレス 入場無料 13:00開演

申込は、公益社団法人人吉地区法人会事務局にて必ず無料チケットをお受け取り下さい。
申込締切日：2024年1月22日(月)まで
申込場所：国志青井阿蘇神社裏 人吉地区法人会事務局 (10:00～12:00/13:00～15:00 対応)
※満席になりましたらご遠慮いただく場合がございます。
※当日チケットは必ずご持参下さい。チケットがない場合、会場に入ることができません。
お問い合わせ 人吉地区法人会 0966-23-3636

13時 球磨川と共に生きるさとう宗幸チャリティーコンサート

皆さん、こんにちは。さとう宗幸です。
あの未曾有の洪水から3年半が経ちました。
人吉市とのご縁は以前、専門学校の校歌や人吉市のイメージソング「球磨川」の制作発表会で何度かお話ししておりました。
そんななか、球磨のある人吉市の惨状をニュースで見ると心に響きました。
同じ災害を経験した者としては何か協力したいと常々感じておりましたところ人吉市の旅館組合の女将さんからお声を掛けて戴き、お邪魔する運びとなりました。苦難を乗り越えて、旅路のまでが帰郷されるとお聞きしました。
誠に改めてどうもありがとうございます。
皆さんでイメージソング「球磨川」を一緒に唄わせて戴き併せてあのような惨劇が起こらない事を祈りたいと思っております。
皆さんにお会いできます事を楽しみに致しております。

さとう宗幸



14時30分 観光復興と防災を語るシンポジウム

- I 災害と観光復興の報告会
 - 人吉市長 華もみじ 女将
 - 南阿蘇温泉 華もみじ 女将
 - 武雄温泉 京都屋 女将
 - 人吉温泉 清流山水花あゆの里 女将
 - II 復興と防災を語るパネル討論
 - 国土交通省八代河川国道事務所
 - 熊本県球磨地域振興局
 - 人吉市
 - 南阿蘇温泉
 - 武雄温泉
 - 人吉温泉 女将の会
- 【コーディネーター】東京大学大学院客員教授 松尾 一郎 氏

17時終了



主催：人吉温泉女将の会さくら会
後援：国土交通省九州地方整備局(申請中)・九州運輸局(申請中)・熊本県・人吉市・球磨地区法人会

球磨村の渡地区(島田エリア)の営農再開

○令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けた球磨村の渡地区の農地について、令和6年3月に島田エリアの農地復旧2.0haとそれを潤す水利施設(頭首工、用水路)が完成し、災害発生後初めて営農が再開される。

令和6年の春から
営農再開



農地復旧完了



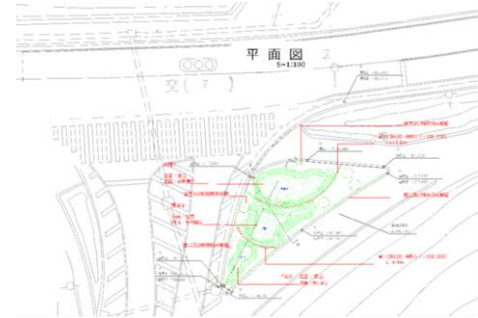
渡地区(球磨村)
島田エリア



頭首工復旧完了

県内初となる道路敷内での雨庭整備

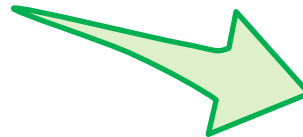
○緑の流域治水の推進に向け、国道221号と県道上漆田東間下線の交差点部(道路敷内)に県内初となる雨庭を整備。雨庭に直接降った雨水だけでなく、路面排水の集水、貯留、地中への浸透により雨水の流出を抑制します。



整備前 国道から県道を望む



整備後 県道から国道を望む



整備後

JICAとの連携で創造的復興を実施(球磨地域振興局④)

「ひごラボ」の導入

○人吉・球磨地域での課題提案型・官民連携 (2021年12月～2024年2月)

- 1) 地域内課題抽出
- 2) 地域外事業提案呼び込み
- 3) マッチング創出
域内外300名以上のネットワーキング、38件のマッチング、19件のプロジェクト化を実施
- 4) 課題解決先進地への視察
- 5) グリーンニューディール創造支援事業による持続的展開



2024年2月の最終報告会では地域のキーパーソンが参加し、創造的復興を継続するための熱い議論を交わした

JICA海外協力隊グローバルプログラム

○草の根レベルでの復興支援 (2020年10月～)

協力隊派遣前に自治体等の行う地方創生や多文化共生に向けた取組みに参加し、途上国が抱える同様の課題への対応力を涵養し、さらに、帰国後地域貢献できるグローバル人材を育成。熊本県は70名受入、うち32名は人吉・球磨地域で防災食、観光、スポーツ振興、等で活躍。



AED講習やラクロスの指導をするグローバル実習生

タイ国実施ボランティア事業受入支援

○外国人による観光展開 (2024年3月～6月)
魅力ある人吉地域を海外に発信するため、タイ人ボランティア(観光分野)と球磨振興局・人吉市役所職員が協働し、観光情報の多言語化を図る。